

脳卒中発症登録集計結果

脳卒中の治療を目的に入院した患者が、退院(転院、死亡含む)した場合に、県内の協力が得られた医療機関から提供された発症登録の集計結果は次のとおりである(令和元(2019)年8月受付分まで)。

ここでは脳卒中発症登録票(様式1号)に基づき提供された脳卒中患者情報のうち、平成30(2018)年1月1日から平成30(2018)年12月31日までに医療機関を退院したものについて扱う。(本文、表中の率【%】については小数点以下第2位を四捨五入した値、図中の率【%】については小数点以下第1位を四捨五入した値を示した。)

【平成30(2018)年の主な状況】

- 届出は合計4,792件、30医療機関からの届出があった。
- 脳卒中の分類別では、脳梗塞が3,217件(67.1%)、脳内出血が1,040件(21.7%)、くも膜下出血が309件(6.4%)、その他の脳卒中が226件(4.7%)であった。
- 再発者は1,067件で全体の約1/5(22.3%)を占めた。
- 発症時の合併症は高血圧が最も多く男性が59.4%、女性が60.3%であった。

1 医療機関所在地別報告状況

協力医療機関の所在地により区分した場合の報告状況である。

協力医療機関所在地区分	協力医療機関数	発症登録件数	うち死亡件数
宇都宮市	6	1,521	118
県西健康福祉センター	4	408	45
県東健康福祉センター	3	309	35
県南健康福祉センター	8	1,096	107
県北健康福祉センター	7	949	107
安足健康福祉センター	2	509	43
合計	30	4,792	455
機能別医療機関 急性期	6	1,249	147
機能別医療機関 急性期及び回復期	12	2,949	262
機能別医療機関 回復期	10	556	39
それ以外の医療機関	2	38	7

2 患者住所地別報告状況

登録された患者の住所により区分した場合の報告状況である。

患者住所地区分	協力医療機関数	発症登録件数	うち死亡件数
宇都宮市	17	1,127	92
県西健康福祉センター	17	573	60
県東健康福祉センター	14	378	38
県南健康福祉センター	20	1,040	104
県北健康福祉センター	16	1,187	122
安足健康福祉センター	9	487	39
合計	—	4,792	455

3 病型別・初発再発別登録状況

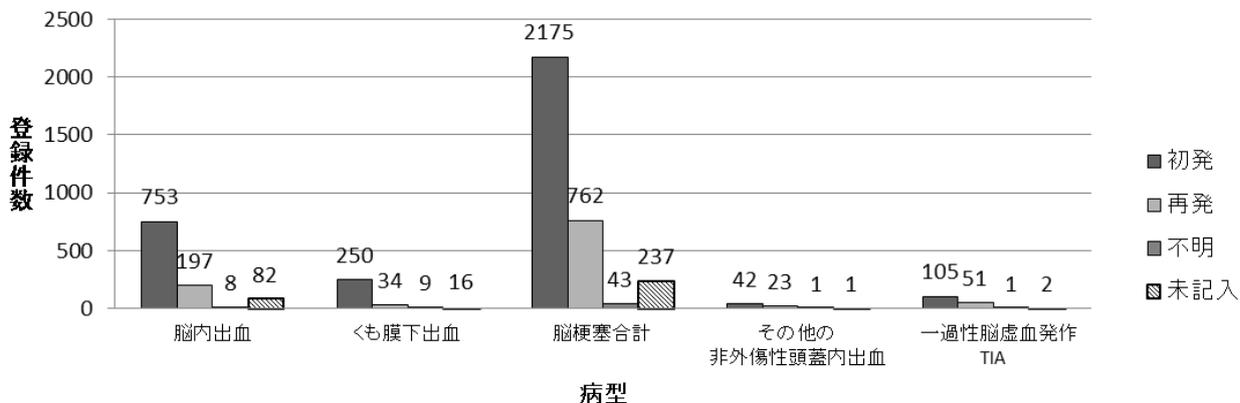
病型別の登録状況では、脳梗塞合計が最も多く3,217件(67.1%)、次いで脳内出血1,040件(21.7%)、くも膜下出血309件(6.4%)であった。初発再発別の登録状況では、初発の診断が3,325件(69.4%)、再発が1,067件(22.3%)、不明が62件(1.3%)、未記入が338件(7.1%)であった(表1・図1)。

病型別の再発率は、脳梗塞合計で23.7%(762/3,217件)、脳内出血で18.9%(197/1,040件)、くも膜下出血で11.0%(34/309件)であった。

表1 病型別・初発再発別登録件数

診断病型	初発	再発	不明	未記入	総計
脳内出血	753	197	8	82	1040
くも膜下出血	250	34	9	16	309
脳梗塞	2175	762	43	237	3217
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	910	283	15	52	1260
脳梗塞-心原性脳梗塞	490	204	11	52	757
脳梗塞-ラクナ梗塞	393	151	3	32	579
脳梗塞-その他の脳梗塞	262	73	9	78	422
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	62	25	3	12	102
脳梗塞-未記入	58	26	2	11	97
その他の非外傷性頭蓋内出血	42	23	1	1	67
一過性脳虚血発作 TIA	105	51	1	2	159
総計	3325	1067	62	338	4792

図1 病型別・初発再発別登録件数



4 性別・年齢階級別登録状況

1) 性別・年齢階級別登録状況

性別では、男は2,643件(55.2%)、女は2,149件(44.8%)で、男が多かった。

年齢階級別では、男は70歳代が788件(29.8%)、女は80歳代が792件(36.9%)と最も多かった(図2・3・4)。

図2 性別・年齢階級別登録件数

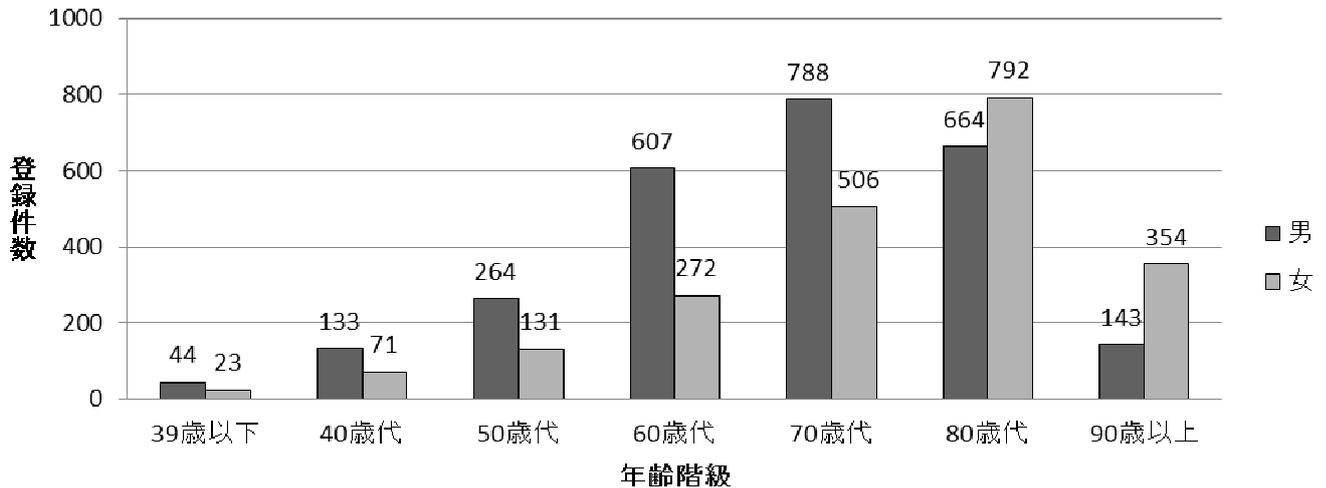


図3 年齢階級別の登録者の構成 男

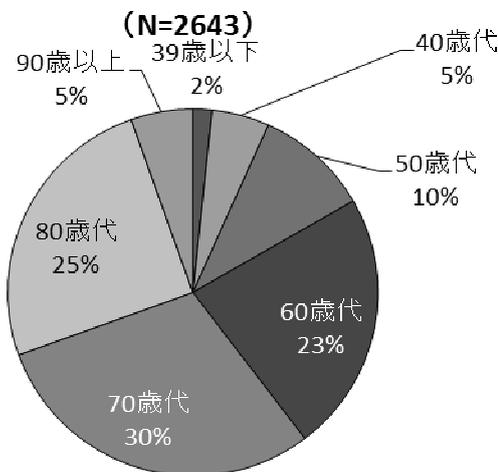
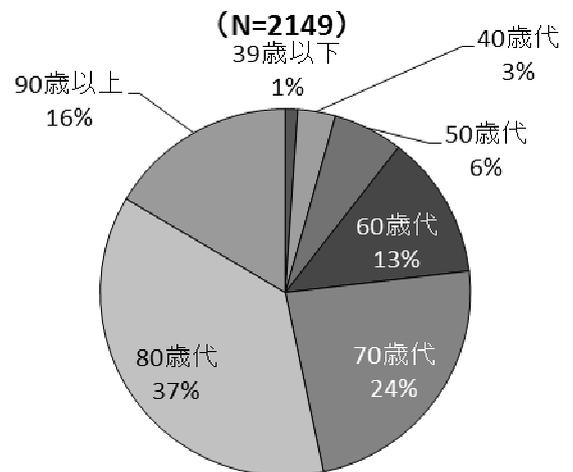


図4 年齢階級別の登録者の構成 女



2) 病型別・初発再発別・性別・年齢階級別登録状況

(1) 脳内出血

初発は、男402件、女351件で、男は70歳代が107件(26.6%)、女は80歳代が106件(30.2%)と最も多かった(図5)。

再発は、男108件、女89件で、男は70歳代が33件(30.6%)、女は80歳代が39件(43.8%)と最も多かった(図6)。

図5 性別・年齢階級別登録件数(脳内出血 初発)

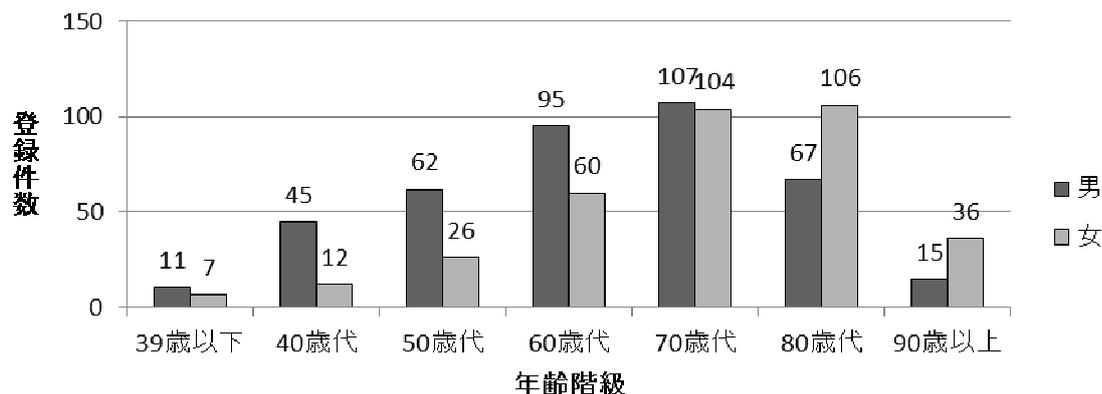
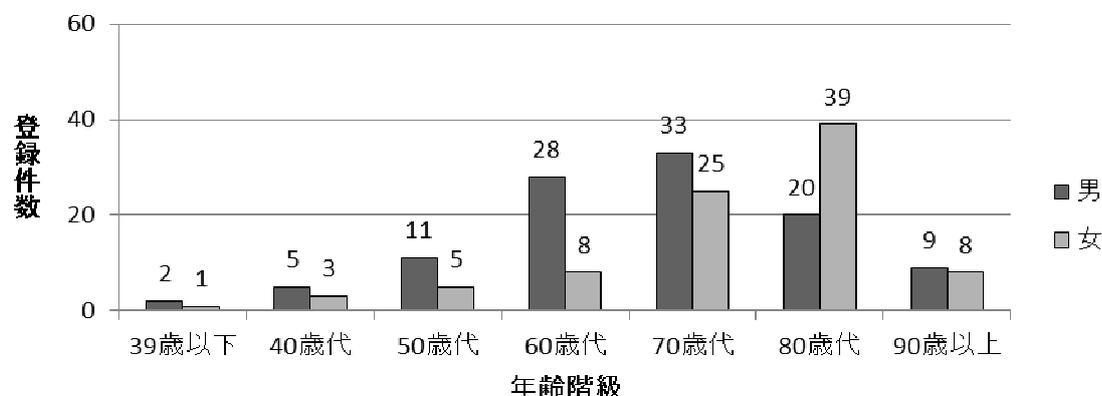


図6 性別・年齢階級別登録件数(脳内出血 再発)



(2)くも膜下出血

初発は、男は74件、女は176件で、男女ともに60歳代が男17件(23.0%)、女45件(25.6%)と最も多かった(図7)。

再発は、男は12件、女は22件で、全体的に報告数が少なく、男は70歳代が、女は80歳代が最も多かった(図8)。

図7 性別・年齢階級別登録件数(くも膜下出血 初発)

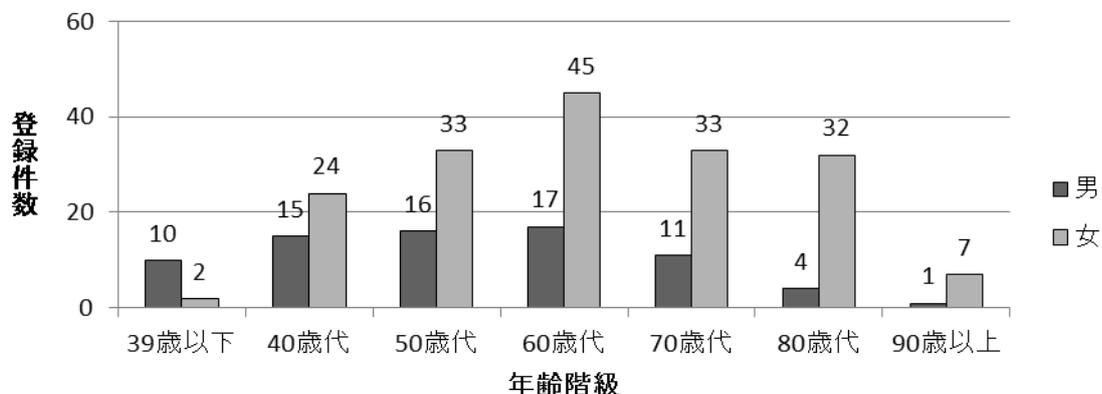
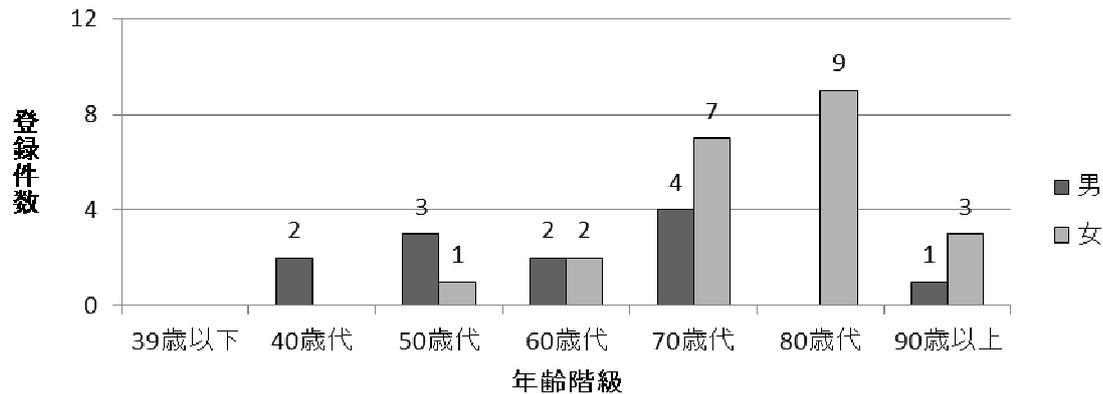


図8 性別・年齢階級別登録件数(くも膜下出血 再発)



(3)脳梗塞

① 脳梗塞合計*

初発は、男は1,245件、女は930件で、男は70歳代が368件(29.6%)、女は80歳代が351件(37.7%)と最も多かった(図9)。

再発は、男は449件、女は313件で、男は70歳代が161件(35.9%)、女は80歳代が140件(44.7%)と最も多かった(図10)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図9 性別・年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 初発)

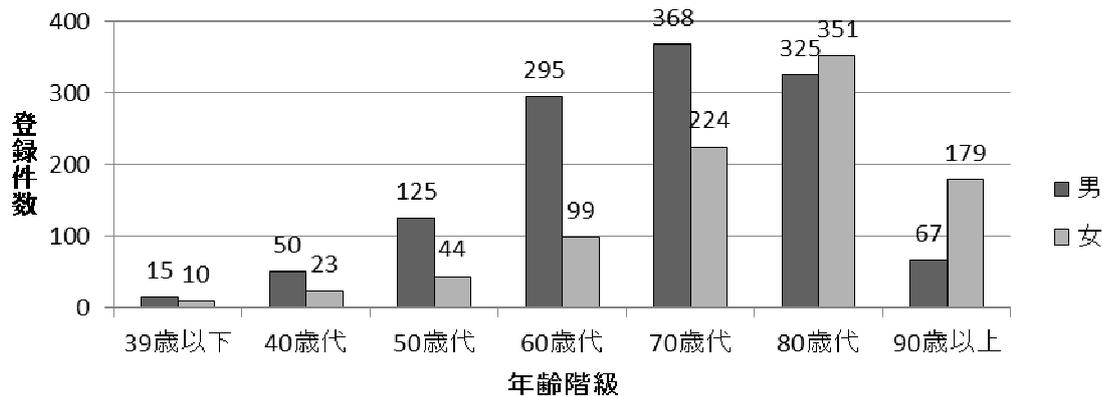
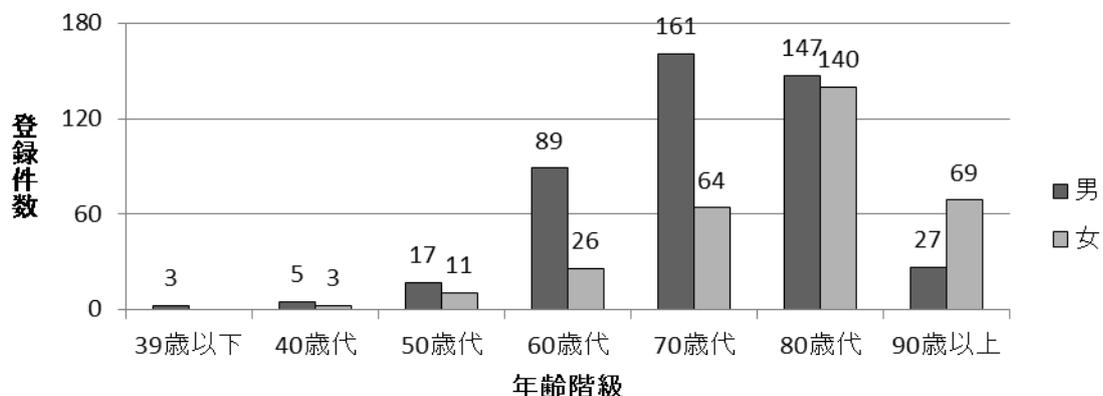


図10 性別・年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 再発)



② アテローム血栓性梗塞

初発は、男は545件、女は365件で、男は70歳代が179件(32.8%)、女は80歳代が128件(35.1%)

と最も多かった（図11）。

再発は、男は179件、女は104件で、男は70歳代が66件（36.9%）、女は80歳代が45件（43.3%）と最も多かった（図12）。

図11 性別・年齢階級別登録件数(アテローム血栓性梗塞 初発)

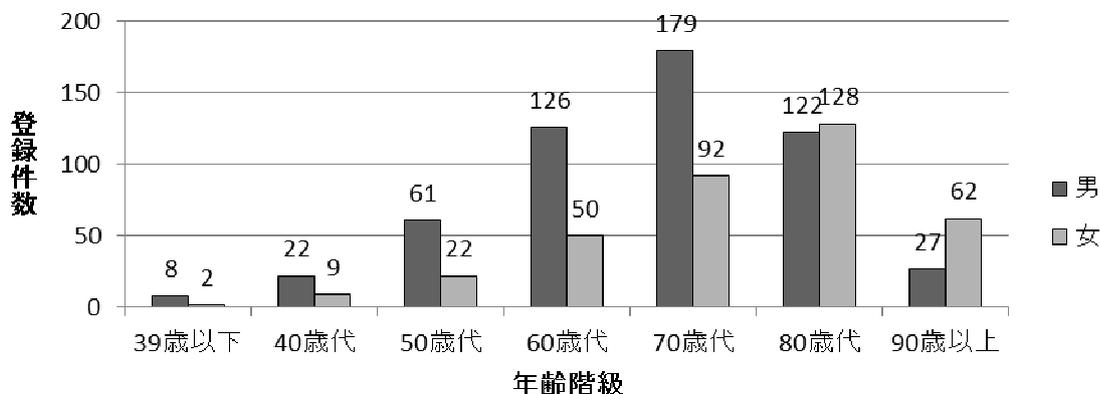
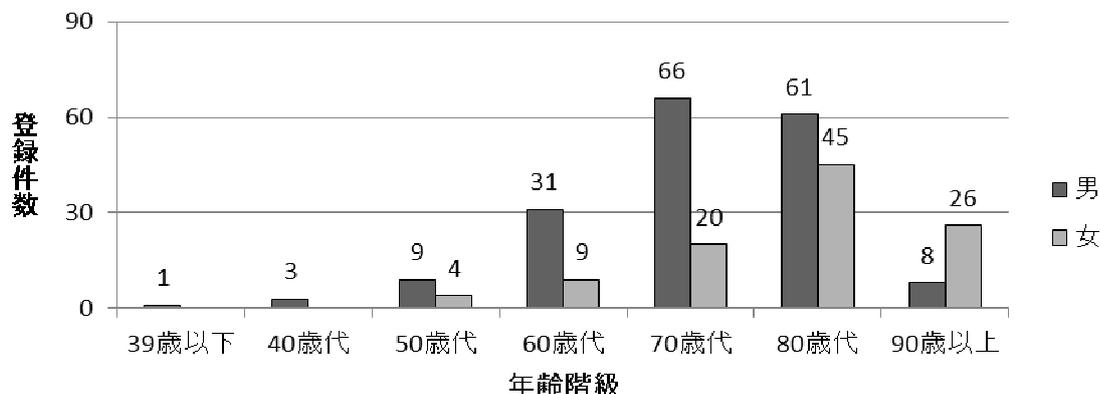


図12 性別・年齢階級別登録件数(アテローム血栓性梗塞 再発)



③ 心原性脳梗塞

初発は、男は253件、女は237件で、男は80歳代が93件（36.8%）、女は80歳代が107件（45.1%）と最も多かった（図13）。

再発は、男は106件、女は98件で、男女とも80歳代が男44件（41.5%）、女50件（51.0%）と最も多かった（図14）。

図13 性別・年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 初発)

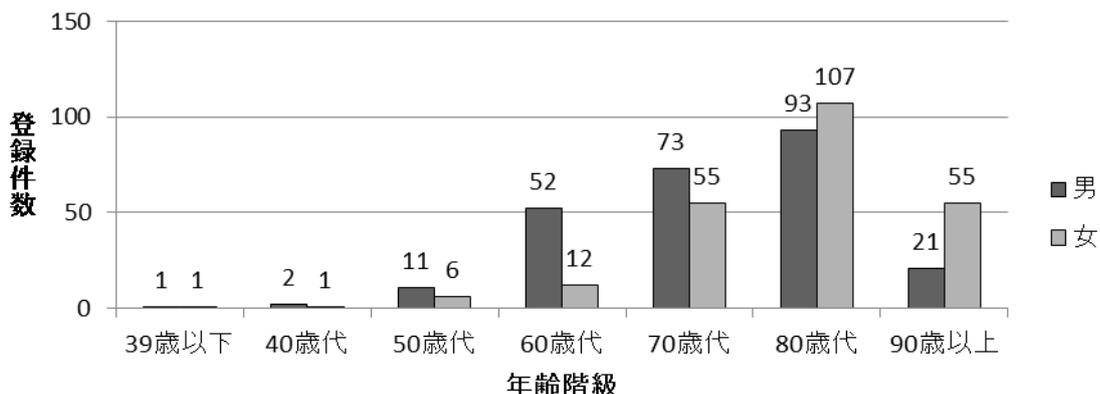
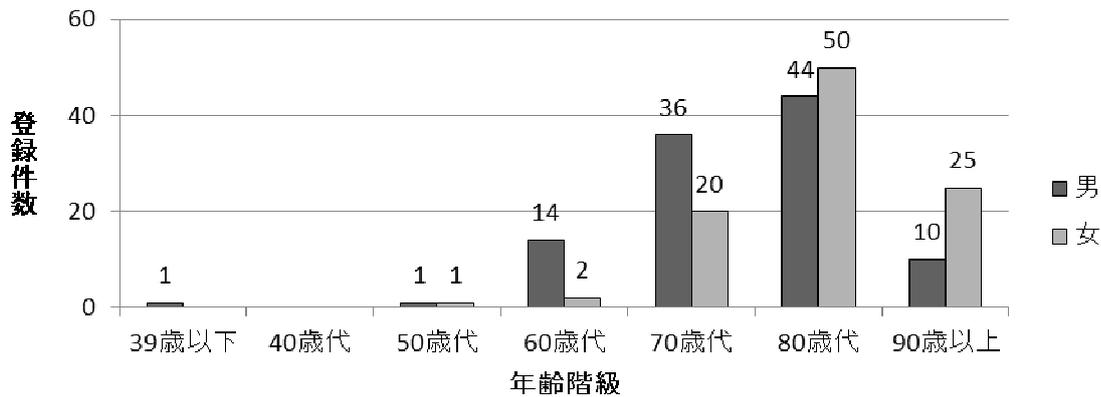


図14 性別・年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 再発)



④ ラクナ梗塞

初発は、男は245件、女は148件で、男は60歳代が69件(28.2%)、女は80歳代が47件(31.8%)と最も多かった(図15)。

再発は、男は92件、女は59件で、男は70歳代が31件(33.7%)、女は80歳代が22件(37.3%)と最も多かった(図16)。

図15 性別・年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 初発)

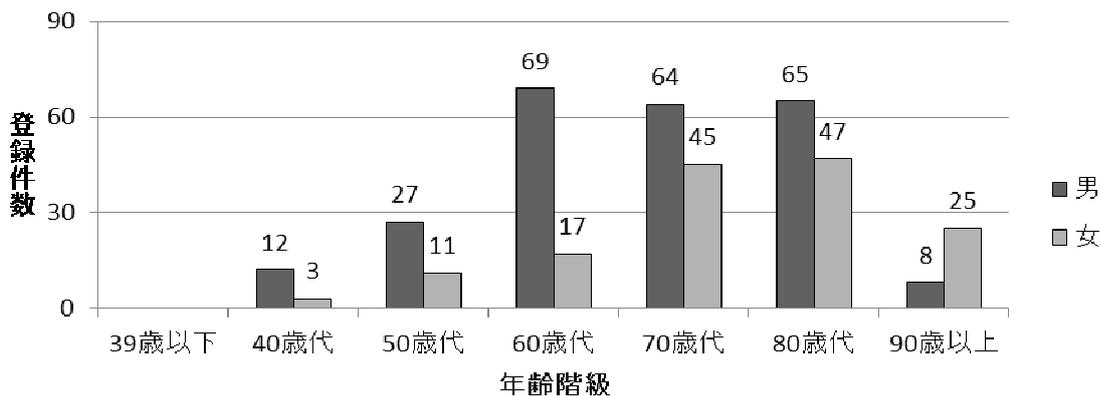
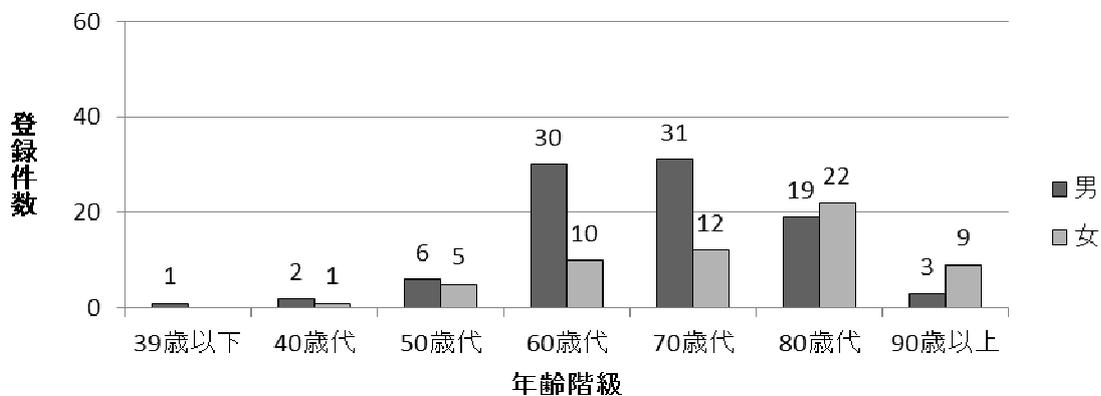


図16 性別・年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 再発)



(4)一過性脳虚血発作 TIA

初発は、男は57件、女は48件で、男は60歳代が17件(29.8%)、女は80歳代が17件(35.4%)と最も多かった(図17)。

再発は、男 31 件、女は 20 件で、男女とも 80 歳代が男 11 件(35.5%)、女 7 件(35.0%)と最も多かった (図 18)。

図17 性別・年齢階級別登録件数(一過性脳虚血発作TIA 初発)

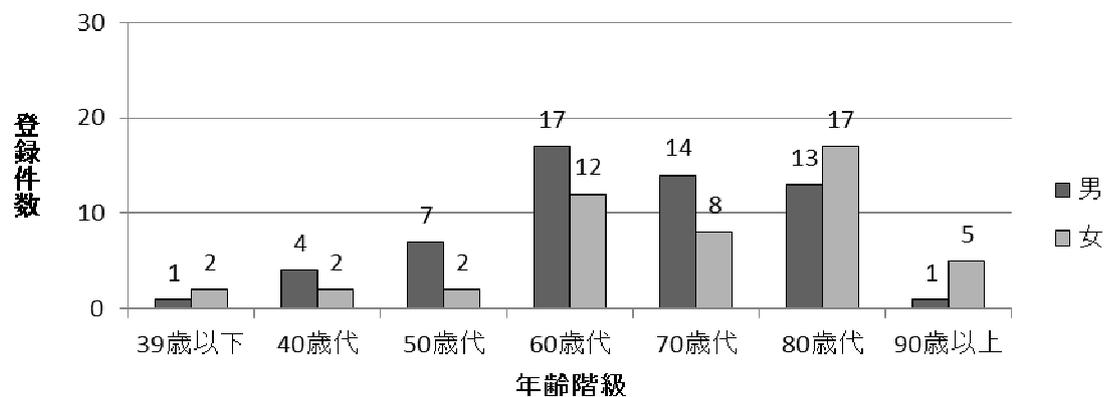
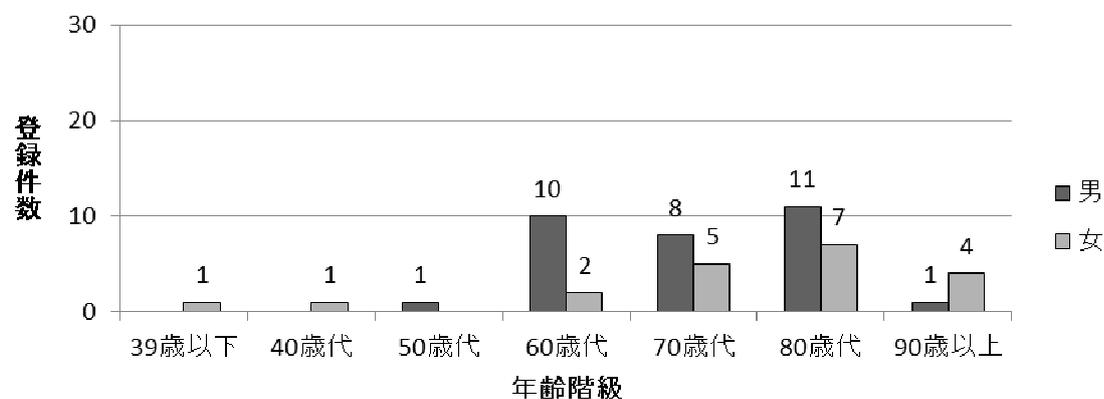


図18 性別・年齢階級別登録件数(一過性脳虚血発作TIA 再発)



3) 病型別・発症時間別・発症場所別登録状況

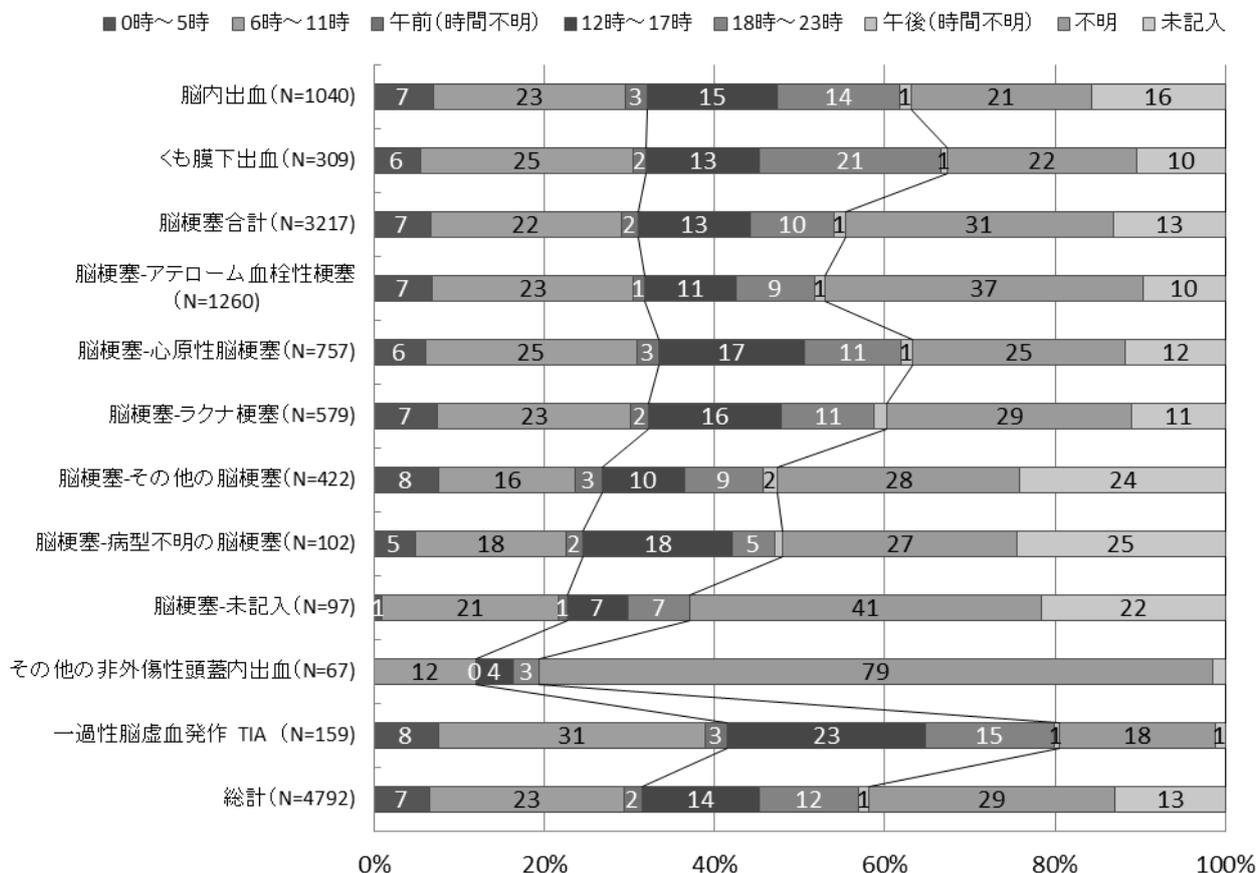
(1) 発症時間

発症時間は、脳内出血の発症は午前では 334 件 (32.1%)、午後では 322 件 (31.0%) だった。

脳梗塞合計*での午前発症は 1,000 件 (31.1%)、午後発症は 781 件 (24.3%) だった。一過性脳虚血発作 TIA での午前発症は、66 件 (41.5%)、午後発症は 62 件 (39.0%) であった。(図 19)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図 19 病型別・発症時間



(2) 発症場所

全ての病型において、不明を除くと居室内での発症が最も多かった (表 2)。

表 2 病型別・発生場所

病型	登録数	屋外	居室内	風呂場 (脱衣場)	風呂場 (浴室内)	トイレ	廊下	院内	その他	不明	未記入
脳内出血	1040	78 (7.5%)	557 (53.6%)	5 (0.5%)	26 (2.5%)	39 (3.8%)	6 (0.6%)	14 (1.3%)	54 (5.2%)	94 (9.0%)	167 (16.1%)
くも膜下出血	309	30 (9.7%)	159 (51.5%)	2 (0.6%)	16 (5.2%)	18 (5.8%)	1 (0.3%)	2 (0.6%)	21 (6.8%)	27 (8.7%)	33 (10.7%)
脳梗塞合計	3217	139 (4.3%)	1773 (55.1%)	16 (0.5%)	23 (0.7%)	37 (1.2%)	9 (0.3%)	147 (4.6%)	92 (2.9%)	546 (17.0%)	435 (13.5%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1260	55 (4.4%)	681 (54.0%)	5 (0.4%)	13 (1.0%)	16 (1.3%)	2 (0.2%)	46 (3.7%)	35 (2.8%)	285 (22.6%)	122 (9.7%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	757	31 (4.1%)	438 (57.9%)	7 (0.9%)	4 (0.5%)	17 (2.2%)	5 (0.7%)	51 (6.7%)	27 (3.6%)	80 (10.6%)	97 (12.8%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	579	30 (5.2%)	363 (62.7%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	9 (1.6%)	10 (1.7%)	91 (15.7%)	68 (11.7%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	422	18 (4.3%)	198 (46.9%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	4 (0.9%)	1 (0.2%)	25 (5.9%)	18 (4.3%)	55 (13.0%)	102 (24.2%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	102	2 (2.0%)	43 (42.2%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (15.7%)	1 (1.0%)	14 (13.7%)	25 (24.5%)
脳梗塞-未記入	97	3 (3.1%)	50 (51.5%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	21 (21.6%)	21 (21.6%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	7 (10.4%)	18 (26.9%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	37 (55.2%)	2 (3.0%)
一過性脳虚血発作 TIA	159	11 (6.9%)	107 (67.3%)	3 (1.9%)	2 (1.3%)	3 (1.9%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)	10 (6.3%)	18 (11.3%)	2 (1.3%)
総計	4792	265 (5.5%)	2614 (54.5%)	26 (0.5%)	68 (1.4%)	97 (2.0%)	17 (0.4%)	167 (3.5%)	177 (3.7%)	722 (15.1%)	639 (13.3%)

5 患者の受診状況

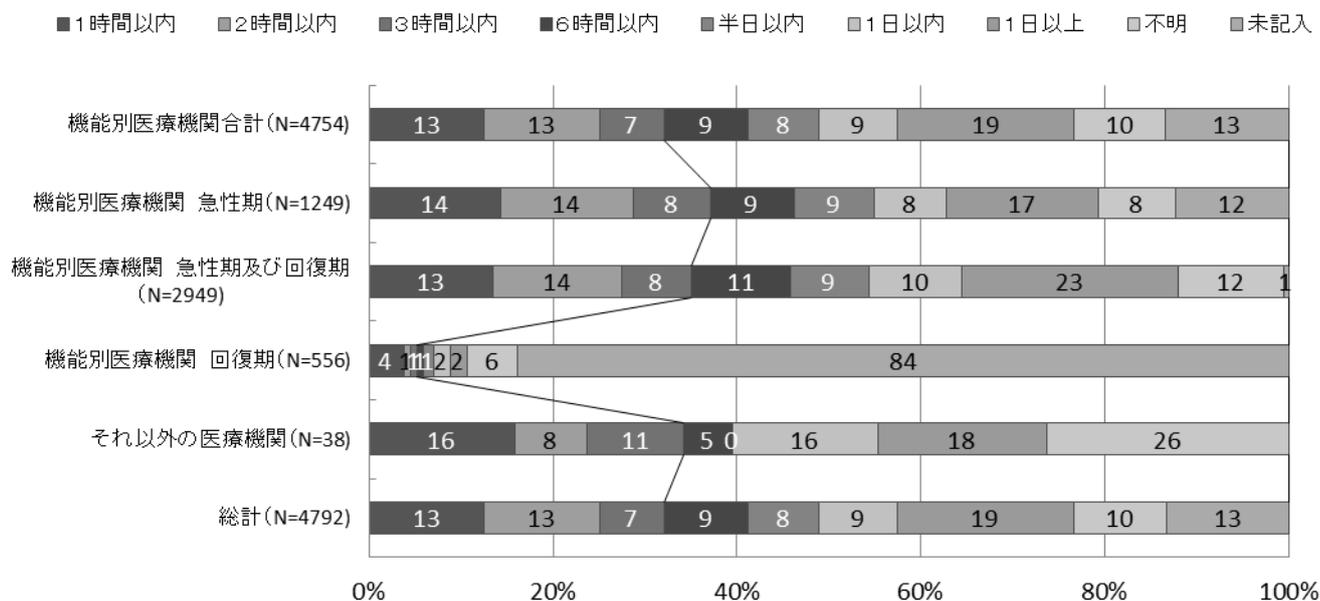
1) 受診までの経過時間

(1) 受診までの経過時間 (機能別医療機関別)

受診までの経過時間が 3 時間以内の割合は、全医療機関で 32.2%、脳卒中の機能別医療機関では 32.1%、それ以外の医療機関では 34.2%だった。機能別医療機関のうち、急性期治療を担う医療機関*では 35.7%だった (図 20)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図20 受診までの経過時間(機能別医療機関別)

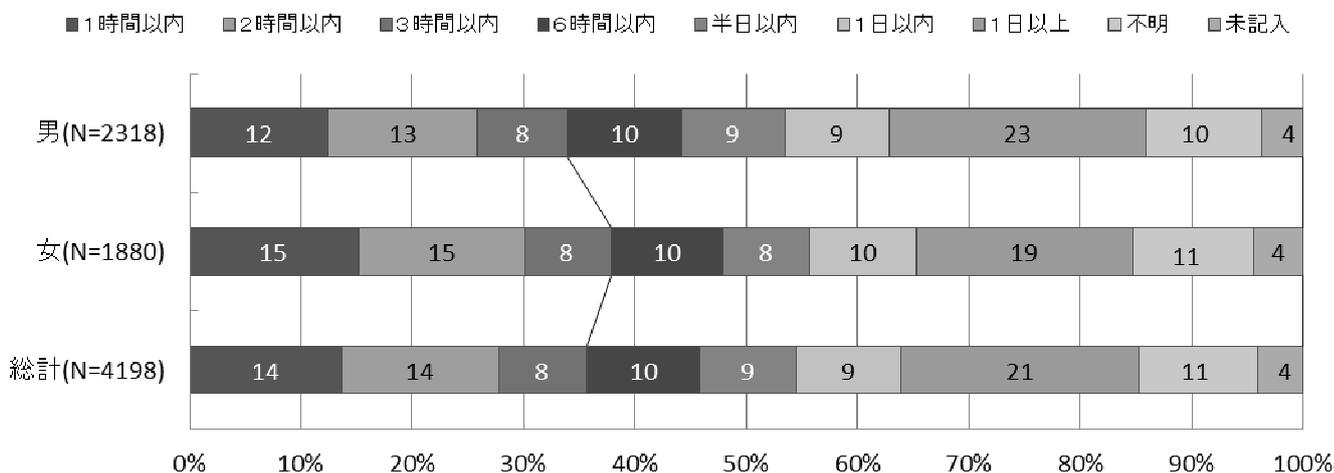


(2) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間 (性別)

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、男 34.0%、女 37.8%であった (図 21)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図21 受診までの経過時間(性別)



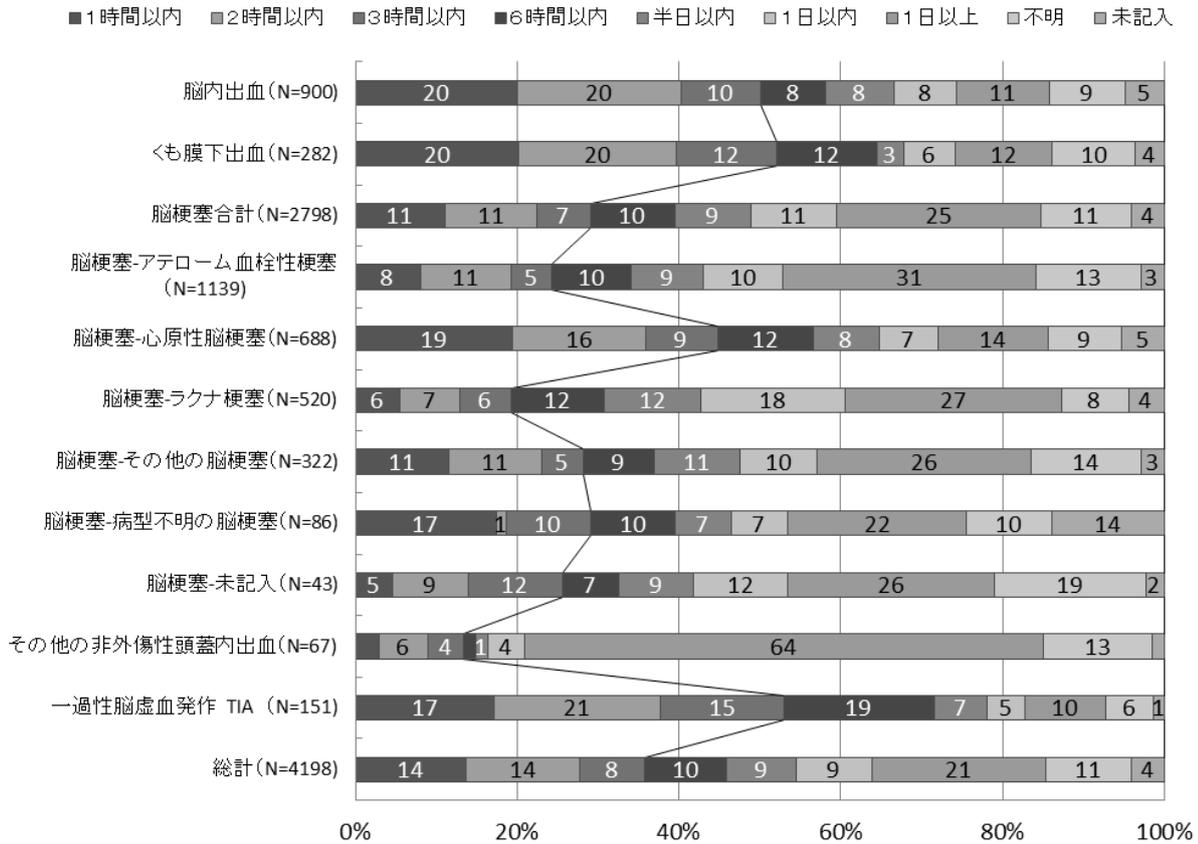
(3) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間 (病型別)

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、一過性脳虚血発作 TIA で 53.0%と最も高く、次いでくも膜下出血では 52.1%であった。一方、脳梗塞合計**では 29.0%であり、他の病型に比べ発症からの経過時間が長い傾向がみられた (図 22)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図22 受診までの経過時間(病型別)

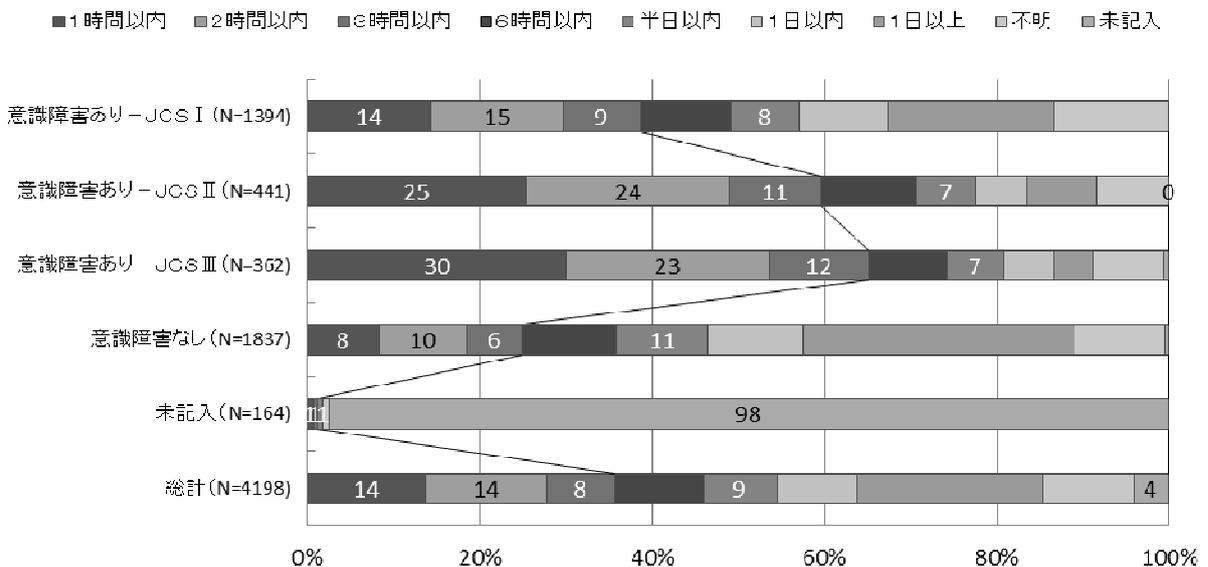


(4) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間 (意識障害の程度別)

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、意識障害が重度である JCS III (刺激しても覚醒しない状態) が 65.2%であり、次いで JCS II (刺激すると覚醒する状態、刺激をやめると眠り込む状態) が 59.6%、JCS I (刺激しないでも覚醒している状態) が 38.7%であり、意識障害が重度であるほど受診までの経過時間は短くなる傾向にあった。(図 23)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図23 受診までの経過時間(意識障害の程度別)



2) 受診の手段

(1) 受診の手段（機能別医療機関別）

全医療機関における受診の手段は、救急車（消防）47.2%、自家用車等34.1%の順に多かった。急性期治療を担う医療機関*では、救急車（消防）による受診が53.0%であった（表3）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表3 受診の手段(機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
機能別医療機関合計	4754	2245 (47.2%)	76 (1.6%)	1623 (34.1%)	178 (3.7%)	632 (13.3%)
機能別医療機関 急性期	1249	650 (52.0%)	23 (1.8%)	374 (29.9%)	46 (3.7%)	156 (12.5%)
機能別医療機関 急性期及び回復期	2949	1575 (53.4%)	40 (1.4%)	1210 (41.0%)	113 (3.8%)	11 (0.4%)
機能別医療機関 回復期	556	20 (3.6%)	13 (2.3%)	39 (7.0%)	19 (3.4%)	465 (83.6%)
それ以外の医療機関	38	20 (52.6%)	1 (2.6%)	13 (34.2%)	4 (10.5%)	0 (0.0%)
総計	4792	2265 (47.3%)	77 (1.6%)	1636 (34.1%)	182 (3.8%)	632 (13.2%)

(2) 急性期治療を担う医療機関*における受診の手段（病型別）

救急車（消防）による受診が、脳内出血では74.2%、くも膜下出血が70.9%と7割以上を占めた。脳梗塞合計では、救急車（消防）による受診が44.4%で、自家用車等による受診が45.9%であった。脳梗塞の細分類別に見ると、ラクナ梗塞では58.3%、アテローム血栓性梗塞では53.1%が自家用車等で受診していた（表4）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表4 受診の手段(病型別)

診断病型	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
脳内出血	900	668 (74.2%)	15 (1.7%)	151 (16.8%)	23 (2.6%)	43 (4.8%)
くも膜下出血	282	200 (70.9%)	8 (2.8%)	52 (18.4%)	11 (3.9%)	11 (3.9%)
脳梗塞合計	2798	1242 (44.4%)	38 (1.4%)	1285 (45.9%)	123 (4.4%)	110 (3.9%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1139	449 (39.4%)	11 (1.0%)	605 (53.1%)	40 (3.5%)	34 (3.0%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	688	418 (60.8%)	10 (1.5%)	181 (26.3%)	43 (6.3%)	36 (5.2%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	520	183 (35.2%)	6 (1.2%)	303 (58.3%)	6 (1.2%)	22 (4.2%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	322	154 (47.8%)	7 (2.2%)	135 (41.9%)	20 (6.2%)	6 (1.9%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	86	24 (27.9%)	2 (2.3%)	35 (40.7%)	14 (16.3%)	11 (12.8%)
脳梗塞-未記入	43	14 (32.6%)	2 (4.7%)	26 (60.5%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	31 (46.3%)	1 (1.5%)	33 (49.3%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)
一過性脳虚血発作 TIA	151	84 (55.6%)	1 (0.7%)	63 (41.7%)	2 (1.3%)	1 (0.7%)
総計	4198	2225 (53.0%)	63 (1.5%)	1584 (37.7%)	159 (3.8%)	167 (4.0%)

(3) 急性期治療を担う医療機関*における受診の手段（意識障害の程度別）

救急車（消防）による受診は、意識障害が重度であるJCSⅢが85.6%と最も多く、意識障害なしでは、58.2%が自家用車等で受診していた（表5）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表5 受診の手段(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
意識障害あり-JCS I	1394	840 (60.3%)	28 (2.0%)	454 (32.6%)	69 (4.9%)	3 (0.2%)
意識障害あり-JCS II	441	371 (84.1%)	11 (2.5%)	42 (9.5%)	17 (3.9%)	0 (0.0%)
意識障害あり-JCS III	362	310 (85.6%)	8 (2.2%)	17 (4.7%)	26 (7.2%)	1 (0.3%)
意識障害なし	1837	703 (38.3%)	16 (0.9%)	1069 (58.2%)	46 (2.5%)	3 (0.2%)
未記入	164	1 (0.6%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)	1 (0.6%)	160 (97.6%)
総計	4198	2225 (53.0%)	63 (1.5%)	1584 (37.7%)	159 (3.8%)	167 (4.0%)

3) 機能別医療機関別（病型別）

病型別に機能別医療機関の登録の状況を見ると、急性期治療を担う医療機関*からの登録は、脳内出血86.5%、くも膜下出血91.3%、脳梗塞合計**87.0%で多くを占めた（表6）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表6 機能別医療機関別(病型別)

診断病型	登録数	脳卒中の機能別医療機関合計	急性期	急性期及び回復期	回復期	それ以外の医療機関
脳内出血	1040	1037 (99.7%)	327 (31.4%)	573 (55.1%)	137 (13.2%)	3 (0.3%)
くも膜下出血	309	305 (98.7%)	118 (38.2%)	164 (53.1%)	23 (7.4%)	4 (1.3%)
脳梗塞合計	3217	3186 (99.0%)	753 (23.4%)	2045 (63.6%)	388 (12.1%)	31 (1.0%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1260	1249 (99.1%)	308 (24.4%)	831 (66.0%)	110 (8.7%)	11 (0.9%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	757	750 (99.1%)	209 (27.6%)	479 (63.3%)	62 (8.2%)	7 (0.9%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	579	569 (98.3%)	139 (24.0%)	381 (65.8%)	49 (8.5%)	10 (1.7%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	422	419 (99.3%)	68 (16.1%)	254 (60.2%)	97 (23.0%)	3 (0.7%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	102	102 (100.0%)	26 (25.5%)	60 (58.8%)	16 (15.7%)	0 (0.0%)
脳梗塞-未記入	97	97 (100.0%)	3 (3.1%)	40 (41.2%)	54 (55.7%)	0 (0.0%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	67 (100.0%)	2 (3.0%)	65 (97.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
一過性脳虚血発作 TIA	159	159 (100.0%)	49 (30.8%)	102 (64.2%)	8 (5.0%)	0 (0.0%)
総計	4792	4754 (99.2%)	1249 (26.1%)	2949 (61.5%)	556 (11.6%)	38 (0.8%)

4) 診断に用いた検査 (複数回答)

(1) 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

急性期治療を担う医療機関*では、MRI・CTが92.1%と最も高かった(表7)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表7 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
機能別医療機関合計	4754	3952 (83.1%)	1245 (26.2%)	1887 (39.7%)	671 (14.1%)	79 (1.7%)	265 (5.6%)	682 (14.3%)
機能別医療機関 急性期	1249	993 (79.5%)	573 (45.9%)	656 (52.5%)	381 (30.5%)	63 (5.0%)	260 (20.8%)	198 (15.9%)
機能別医療機関 急性期及び回復期	2949	2874 (97.5%)	672 (22.8%)	1197 (40.6%)	290 (9.8%)	16 (0.5%)	5 (0.2%)	18 (0.6%)
機能別医療機関 回復期	556	85 (15.3%)	0 (0.0%)	34 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	466 (83.8%)
それ以外の医療機関	38	38 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
総計	4792	3990 (83.3%)	1245 (26.0%)	1887 (39.4%)	671 (14.0%)	79 (1.6%)	265 (5.5%)	682 (14.2%)

(2) 急性期治療を担う医療機関*における診断に用いた検査 (病型別)

いずれの診断病型でも、MRI・CTが8割以上と多かった(表8)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳梗塞、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表8 診断に用いた検査 (病型別)

診断病型	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
脳内出血	900	831 (92.3%)	156 (17.3%)	396 (44.0%)	31 (3.4%)	11 (1.2%)	7 (0.8%)	54 (6.0%)
くも膜下出血	282	255 (90.4%)	79 (28.0%)	113 (40.1%)	29 (10.3%)	55 (19.5%)	2 (0.7%)	14 (5.0%)
脳梗塞合計	2798	2574 (92.0%)	930 (33.2%)	1233 (44.1%)	573 (20.5%)	13 (0.5%)	233 (8.3%)	143 (5.1%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1139	1052 (92.4%)	381 (33.5%)	429 (37.7%)	223 (19.6%)	3 (0.3%)	112 (9.8%)	53 (4.7%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	688	632 (91.9%)	263 (38.2%)	381 (55.4%)	174 (25.3%)	6 (0.9%)	55 (8.0%)	42 (6.1%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	520	482 (92.7%)	172 (33.1%)	256 (49.2%)	110 (21.2%)	0 (0.0%)	47 (9.0%)	26 (5.0%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	322	298 (92.5%)	90 (28.0%)	131 (40.7%)	54 (16.8%)	4 (1.2%)	15 (4.7%)	9 (2.8%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	86	70 (81.4%)	20 (23.3%)	24 (27.9%)	10 (11.6%)	0 (0.0%)	3 (3.5%)	12 (14.0%)
脳梗塞-未記入	43	40 (93.0%)	4 (9.3%)	12 (27.9%)	2 (4.7%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	66 (98.5%)	13 (19.4%)	40 (59.7%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)
一過性脳虚血発作 TIA	151	141 (93.4%)	67 (44.4%)	71 (47.0%)	36 (23.8%)	0 (0.0%)	22 (14.6%)	4 (2.6%)
総計	4198	3867 (92.1%)	1245 (29.7%)	1853 (44.1%)	671 (16.0%)	79 (1.9%)	265 (6.3%)	216 (5.1%)

(3) 急性期治療を担う医療機関*における診断に用いた検査 (意識障害の程度別)

未記入を除くと、重症度に関わらず、MRI・CTが9割以上と多かった。(表9)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表9 診断に用いた検査 (意識障害の程度別)

意識障害	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
意識障害あり-JCS I	1394	1337 (95.9%)	422 (30.3%)	602 (43.2%)	214 (15.4%)	25 (1.8%)	87 (6.2%)	17 (1.2%)
意識障害あり-JCS II	441	429 (97.3%)	139 (31.5%)	220 (49.9%)	74 (16.8%)	16 (3.6%)	24 (5.4%)	4 (0.9%)
意識障害あり-JCS III	362	343 (94.8%)	74 (20.4%)	200 (55.2%)	35 (9.7%)	18 (5.0%)	8 (2.2%)	6 (1.7%)
意識障害なし	1837	1754 (95.5%)	610 (33.2%)	829 (45.1%)	348 (18.9%)	20 (1.1%)	146 (7.9%)	29 (1.6%)
未記入	164	4 (2.4%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	160 (97.6%)
総計	4198	3867 (92.1%)	1245 (29.7%)	1853 (44.1%)	671 (16.0%)	79 (1.9%)	265 (6.3%)	216 (5.1%)

5) リハビリテーション

(1) リハビリテーションの実施状況 (機能別医療機関別)

リハビリテーションの実施率は全体の81.1%であった。急性期治療を担う医療機関*における実施率は83.2%と高かった（表10）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表10 リハビリテーションの実施状況（機能別医療機関別）

診断病型	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
機能別医療機関合計	4754	3857	576	321	81.1%
機能別医療機関 急性期	1249	950	148	151	76.1%
機能別医療機関 急性期及び回復期	2949	2541	401	7	86.2%
機能別医療機関 回復期	556	366	27	163	65.8%
それ以外の医療機関	38	27	11	0	71.1%
総計	4792	3884	587	321	81.1%

(2) リハビリテーションの実施状況（病型別）

病型別にみると、脳梗塞合計*が84.6%と実施率が高かった（表11）。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表11 リハビリテーションの実施状況（病型別）

診断病型	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
脳内出血	1040	812	146	82	78.1%
くも膜下出血	309	225	72	12	72.8%
脳梗塞合計	3217	2721	272	224	84.6%
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1260	1102	108	50	87.5%
脳梗塞-心原性脳梗塞	757	638	69	50	84.3%
脳梗塞-ラクナ梗塞	579	507	44	28	87.6%
脳梗塞-その他の脳梗塞	422	324	22	76	76.8%
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	102	79	12	11	77.5%
脳梗塞-未記入	97	71	17	9	73.2%
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	60	6	1	89.6%
一過性脳虚血発作 TIA	159	66	91	2	41.5%
総計	4792	3884	587	321	81.1%

(3) 急性期治療を担う医療機関*におけるリハビリテーションの実施状況（意識障害の程度別）

リハビリテーションの実施率は、意識障害の程度が軽度であるJCS Iで93.6%と最も高く、意識障害の程度が重度であるJCS IIIで53.6%と最も低かった（表12）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表12 リハビリテーションの実施状況（意識障害の程度別）

意識障害	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
意識障害あり-JCS I	1394	1305	89	0	93.6%
意識障害あり-JCS II	441	395	45	1	89.6%
意識障害あり-JCS III	362	194	166	2	53.6%
意識障害なし	1837	1588	245	4	86.4%
未記入	164	9	4	151	5.5%
総計	4198	3491	549	158	83.2%

(5) リハビリテーションの種類別実施状況（病型別）

リハビリテーションの種類別にみた実施状況（複数回答）は、理学療法が3,741件（78.1%）、作業療法が3,531件（73.7%）、言語療法が3,012件（62.9%）であった（表13）。

表13 リハビリテーションの種類別実施状況(病型別)

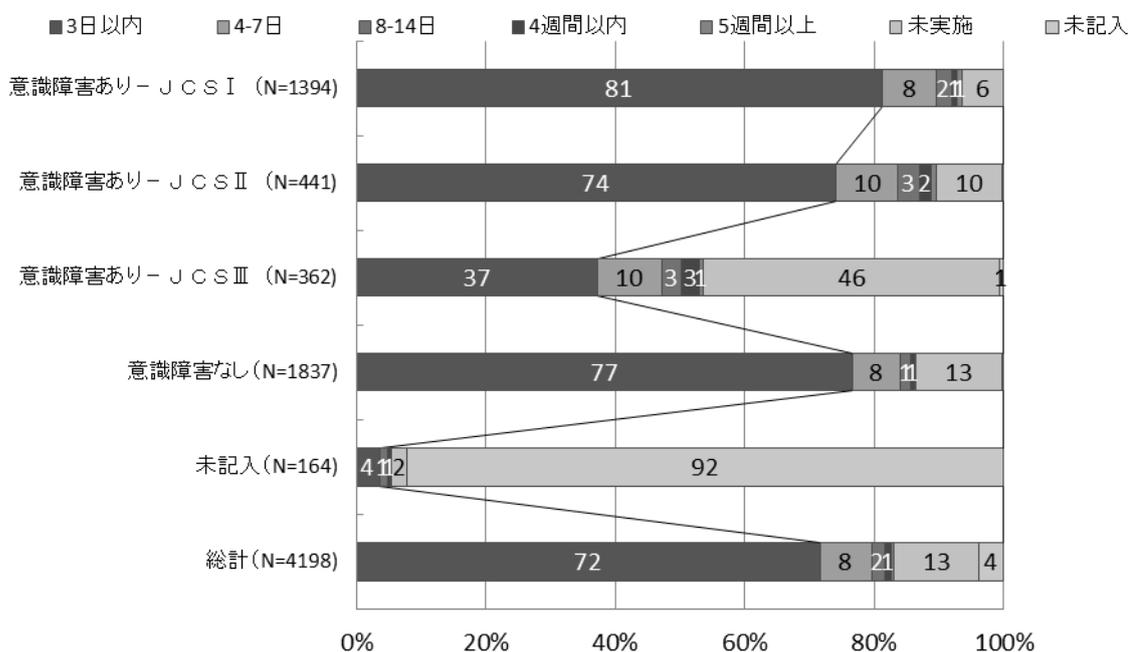
診断病型	登録数	理学療法	作業療法	言語療法
脳内出血	1040	793 (76.3%)	746 (71.7%)	651 (62.6%)
くも膜下出血	309	219 (70.9%)	205 (66.3%)	170 (55.0%)
脳梗塞合計	3217	2608 (81.1%)	2465 (76.6%)	2107 (65.5%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1260	1052 (83.5%)	1009 (80.1%)	885 (70.2%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	757	619 (81.8%)	581 (76.8%)	501 (66.2%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	579	489 (84.5%)	468 (80.8%)	357 (61.7%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	422	316 (74.9%)	297 (70.4%)	262 (62.1%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	102	77 (75.5%)	72 (70.6%)	67 (65.7%)
脳梗塞-未記入	97	55 (56.7%)	38 (39.2%)	35 (36.1%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	67	58 (86.6%)	60 (89.6%)	36 (53.7%)
一過性脳虚血発作 TIA	159	63 (39.6%)	55 (34.6%)	48 (30.2%)
総計	4792	3741 (78.1%)	3531 (73.7%)	3012 (62.9%)

(6) 急性期治療を担う医療機関*におけるリハビリテーション開始までの日数

入院日から3日以内のリハビリテーション開始は全体で71.7%であった。意識障害の程度別にみると、3日以内の開始は、意識障害の程度が軽度であるJCSⅠで81.3%を占めた。また、意識障害ありのうち最も重度であるJCSⅢでも、37.3%で3日以内にリハビリテーションが開始されていた(図24)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図24 リハビリテーション開始までの日数(意識障害の程度別)



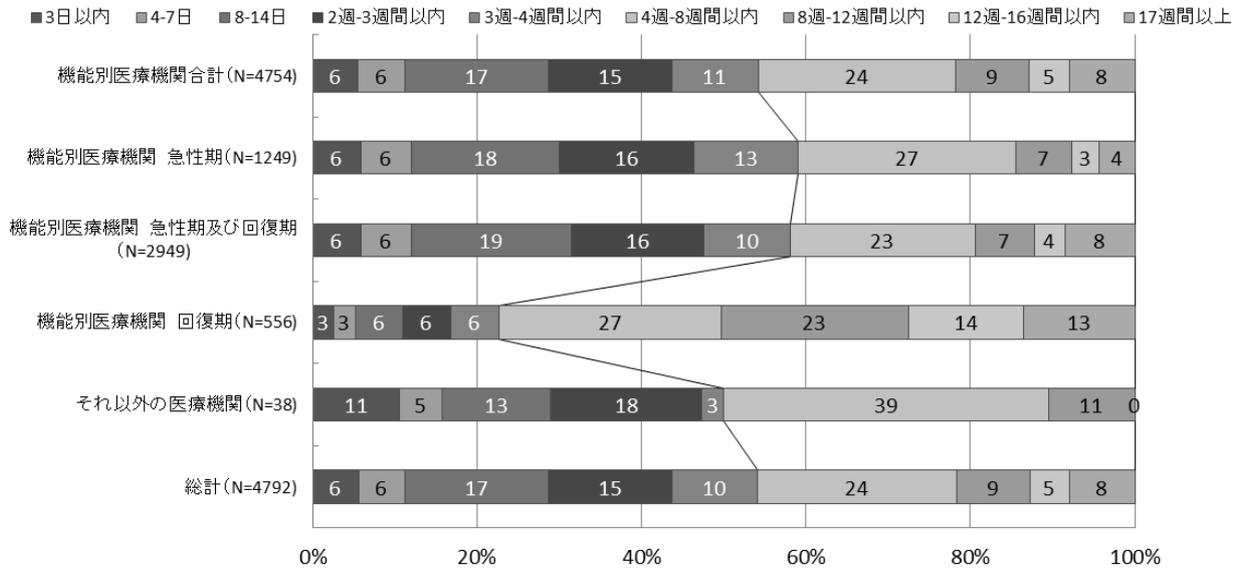
6) 入院から退院までの日数

(1) 入院から退院までの日数 (機能別医療機関別)

急性期治療を担う医療機関*では、入院から4週間以内に58.3%が退院していた(図25)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

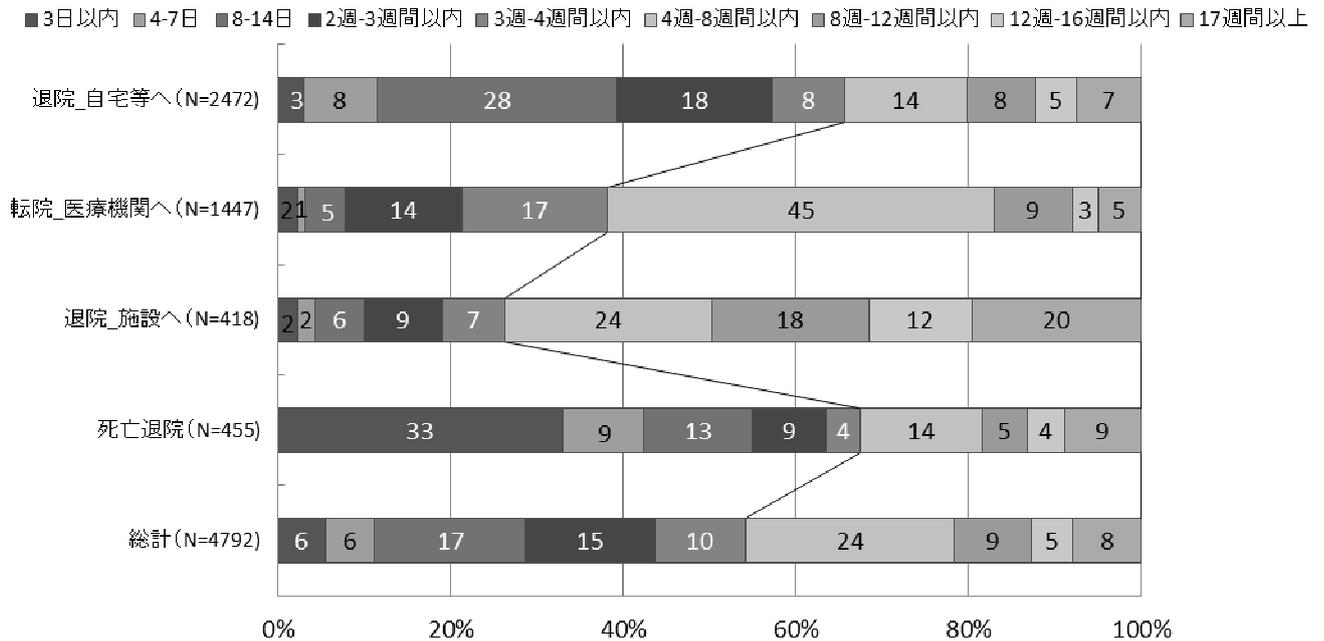
図25 入院から退院までの日数(機能別医療機関別)



(2)入院から退院までの日数 (退院後の患者転帰別)

自宅等への退院は、入院から4週間以内が65.7%であった。死亡退院は、入院から3日以内が33.0%を占めた。医療機関への転院は、入院から8週間以内が82.9%であった(図26)。

図26 入院から退院までの日数(退院後の患者転帰別)

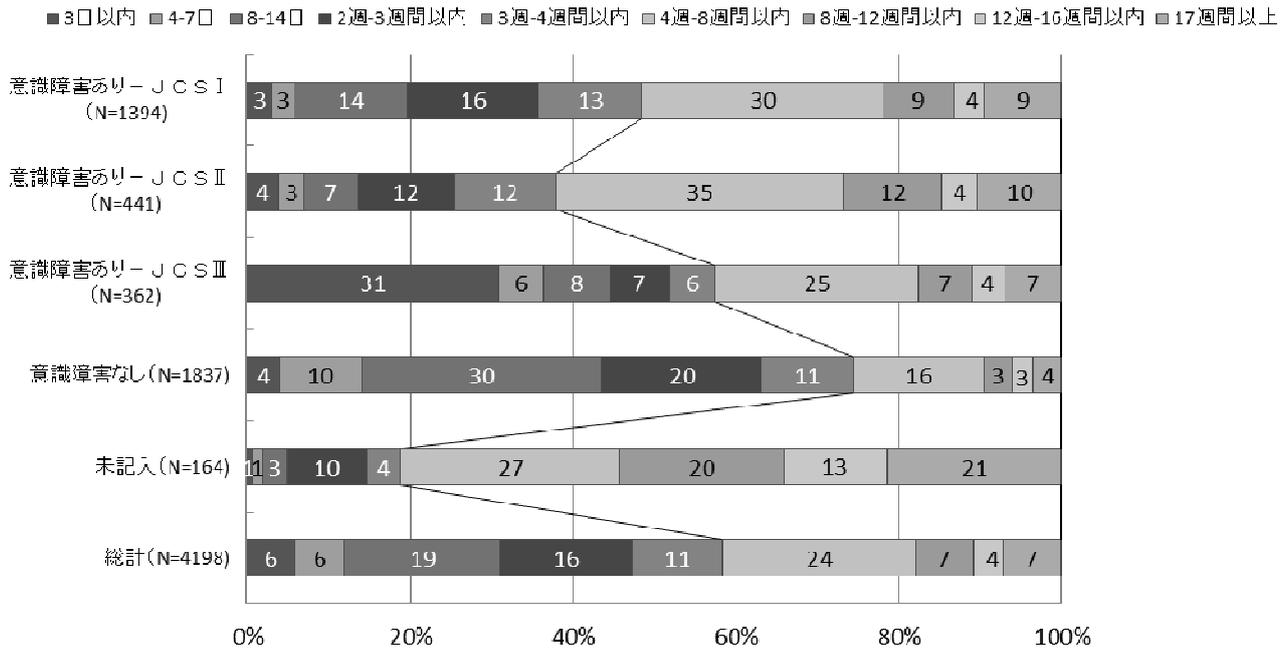


(3)急性期治療を担う医療機関*における入院から退院までの日数 (意識障害の程度別)

入院から4週間以内の退院が全体で58.3%を占めた。入院から4週間以内の退院を意識障害の有無別にみると、意識障害なしでは74.5%と最も多かった。(図27)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図27 入院から退院までの日数(意識障害の程度別)

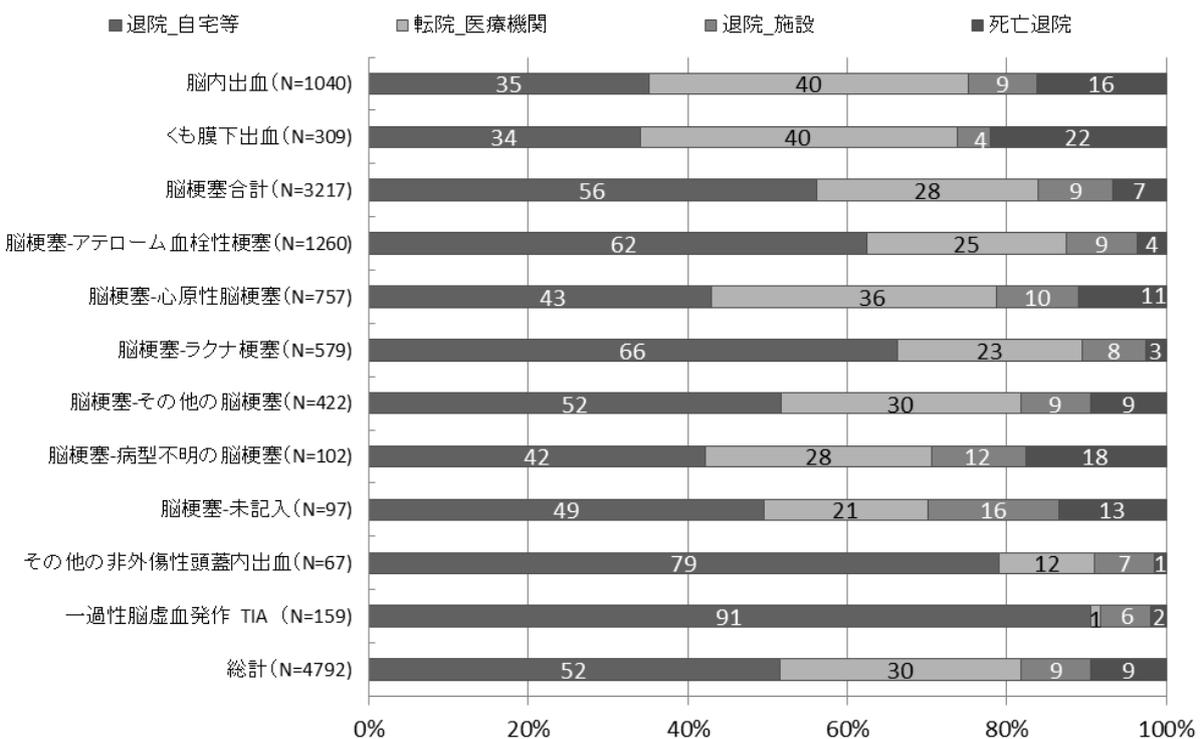


7) 退院後の患者転帰

退院後の患者転帰の状況は、自宅等への退院が全体で 51.6%を占め、次いで医療機関への転院が 30.2%であった。病型別にみると、自宅等への退院割合が最も高かったのは一過性脳虚血発作 TIA で 90.6%であった。死亡退院は全体で 9.5%あり、病型別では、くも膜下出血が 22.0%、脳内出血が 16.2%と高く、脳梗塞合計*は 6.7%であった (図 28)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳梗塞、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図28 退院後の患者転帰(病型別)



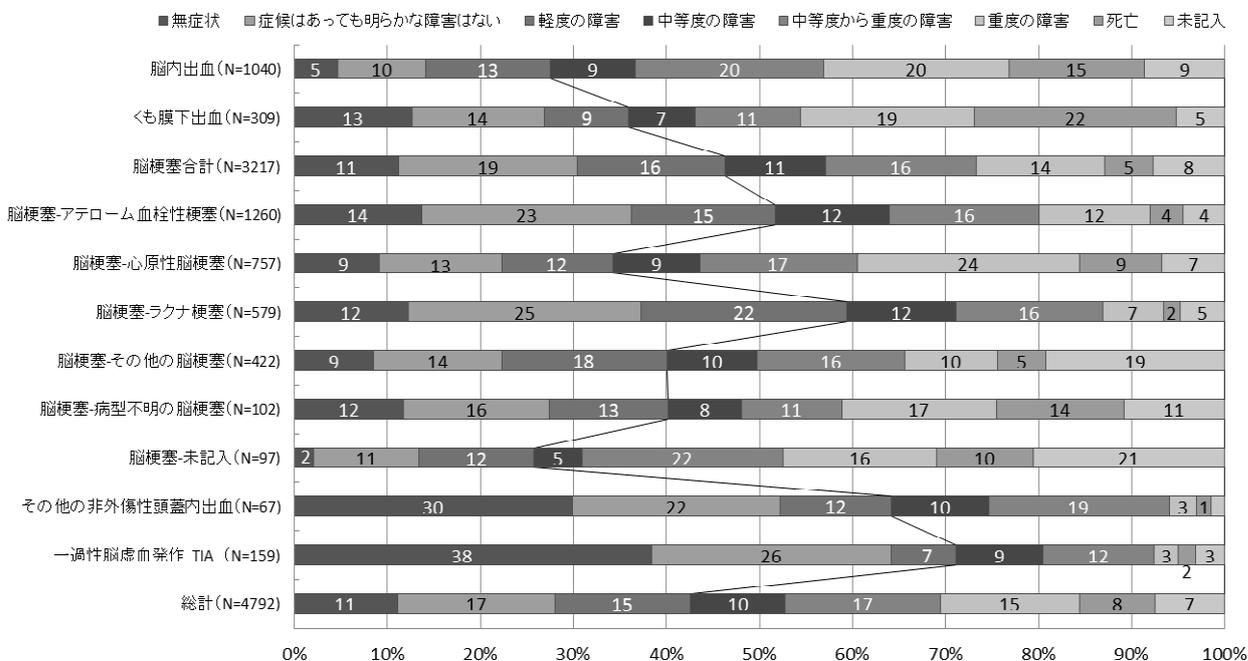
8) mRS(modified ranking-scale)判定基準

(1)病型別・mRS 判定基準

mRS 判定基準を病型別にみると、無症状、症状はあっても明らかな障害がない、軽度の障害があるの合計の割合は、脳内出血は 27.5%、くも膜下出血 35.9%、脳梗塞合計*は 46.3%、一過性脳虚血発作 TIA は 71.1%であった (図 29)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳梗塞、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、脳梗塞未記入の合計

図29 mRS判定基準(病型別)

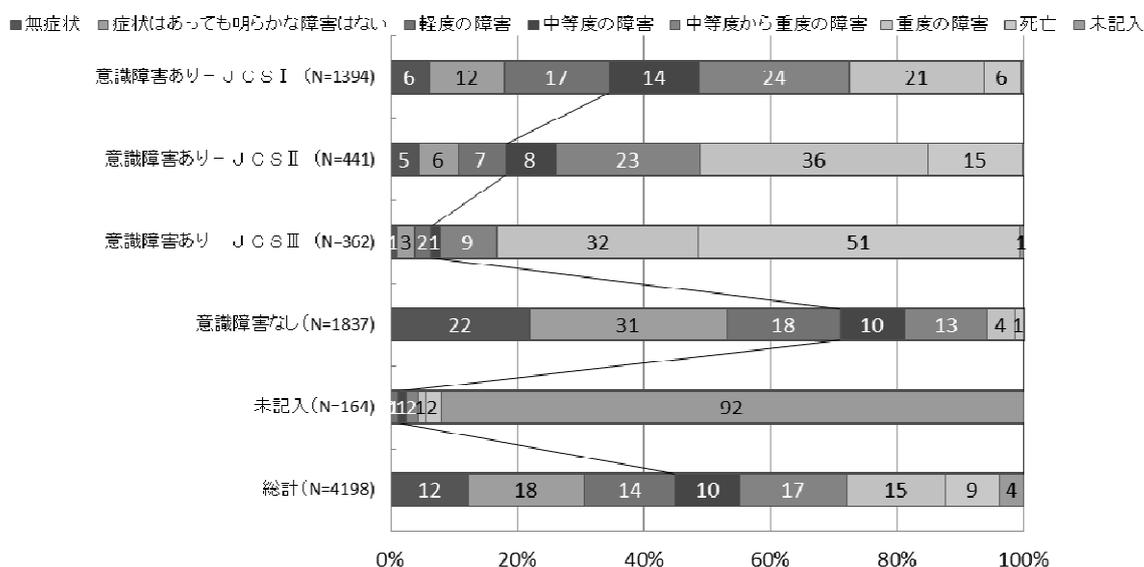


(2)急性期治療を担う医療機関*における mRS 判定基準 (意識障害の程度別)

急性期治療を担う医療機関*での意識障害の程度別の mRS 判定基準において、無症状、症状はあっても明らかな障害はない、及び軽度の障害の合計の割合は、意識障害なしでは 71.0%、JCS I では 34.6%、JCS II は 18.1%、重度である JCS III は 6.4%であった (図 30)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

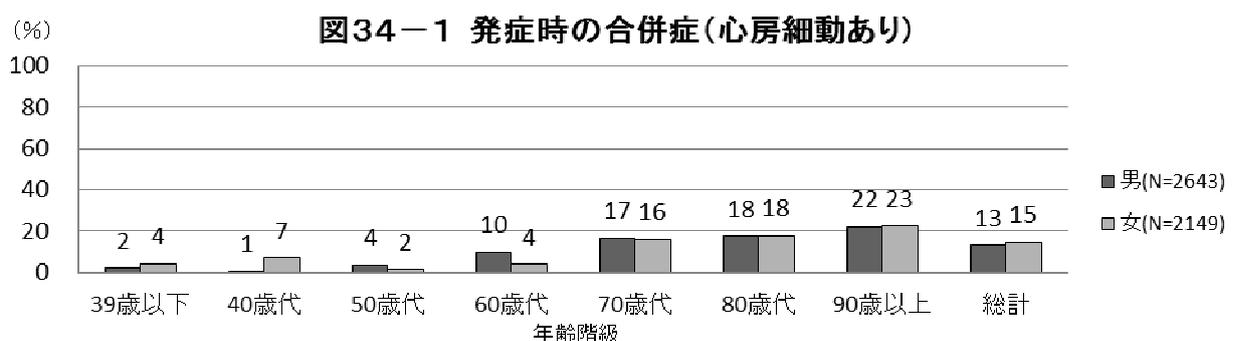
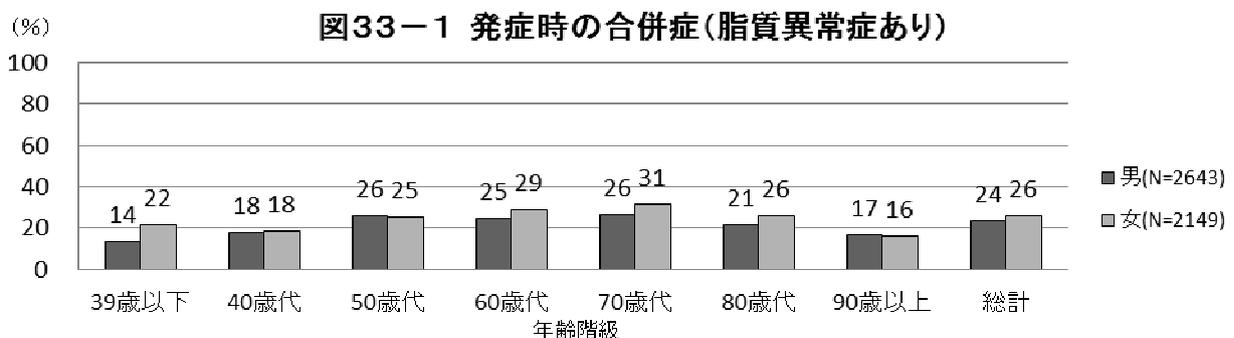
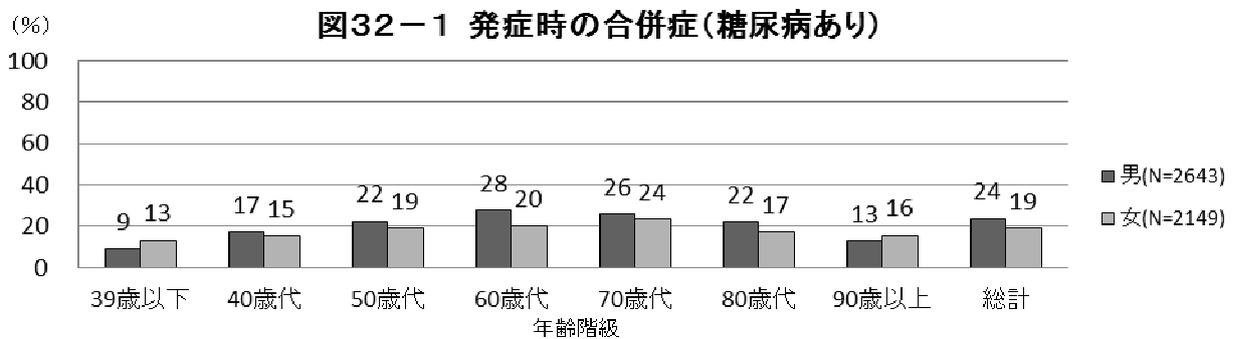
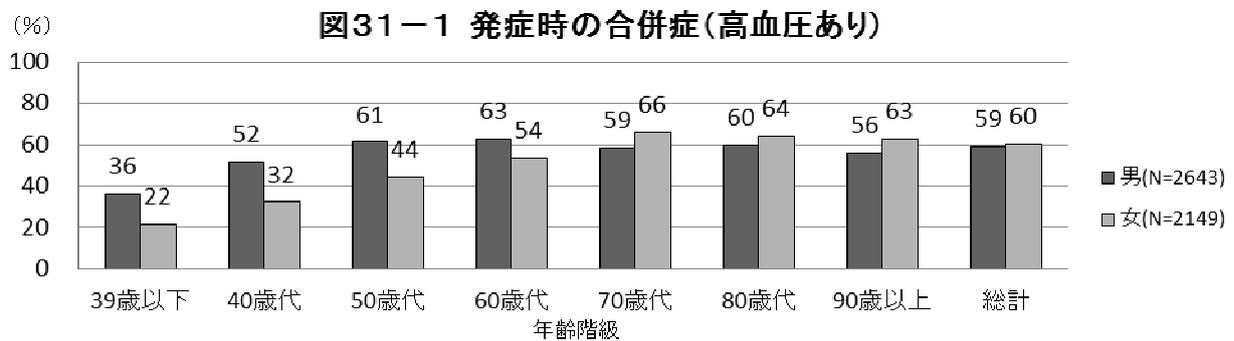
図30 mRS判定基準 (意識障害の程度別)

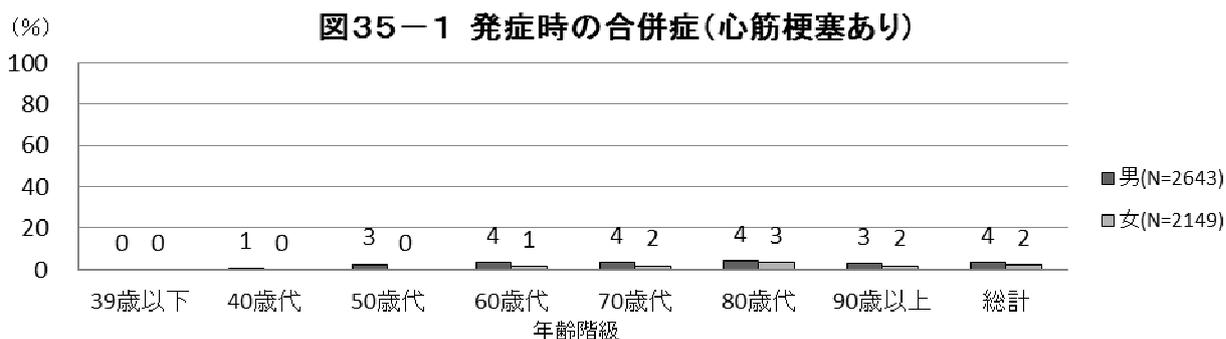


6 発症時合併症の状況

1) 性別年齢階級別にみた発症時の合併症

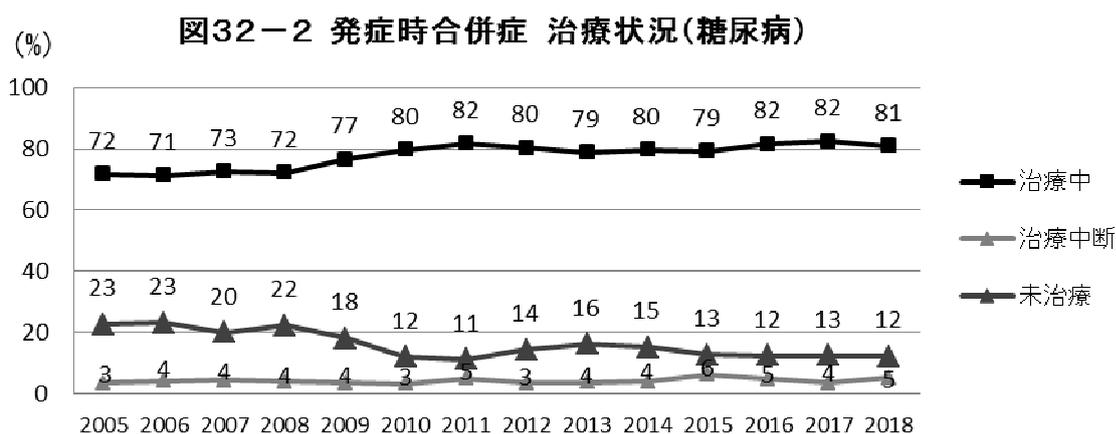
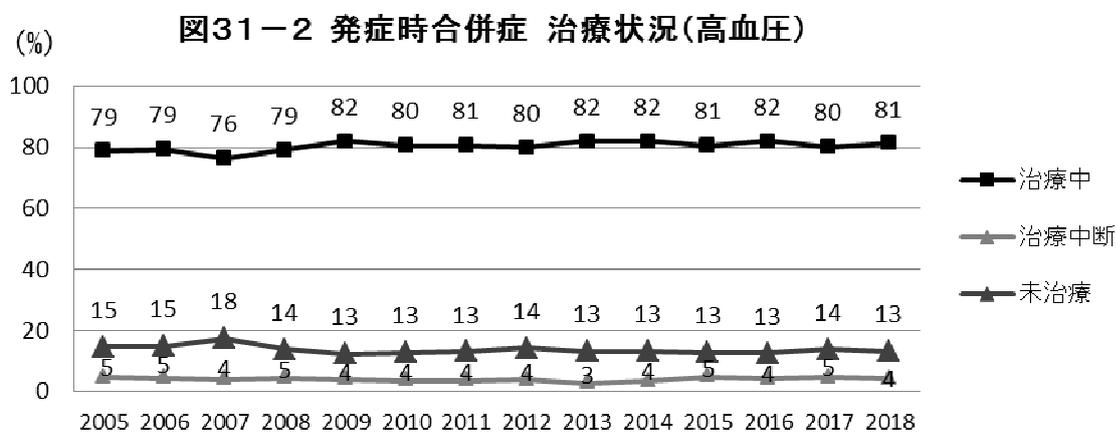
性別年齢階級別にみた発症時の合併症（高血圧、糖尿病、脂質異常症、心房細動、心筋梗塞の状況）は図 31-1、図 32-1、図 33-1、図 34-1、図 35-1 のとおりであった。

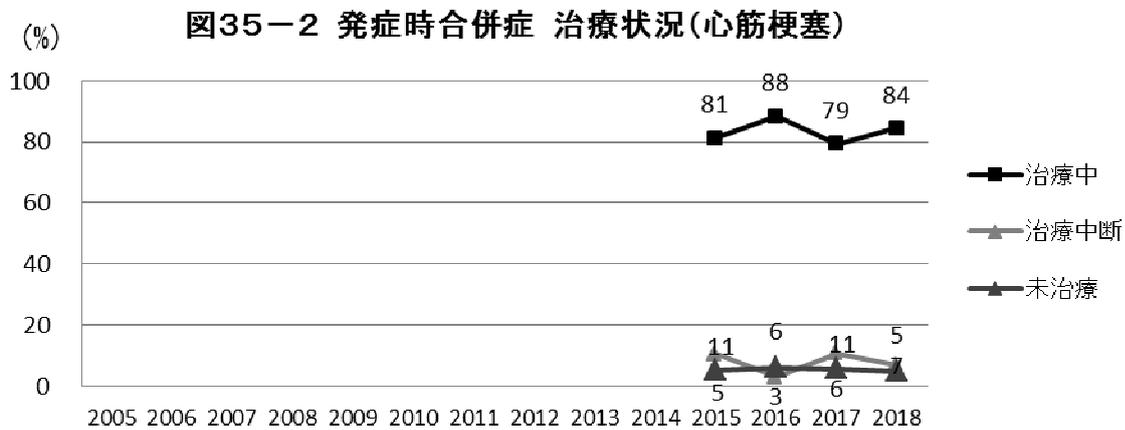
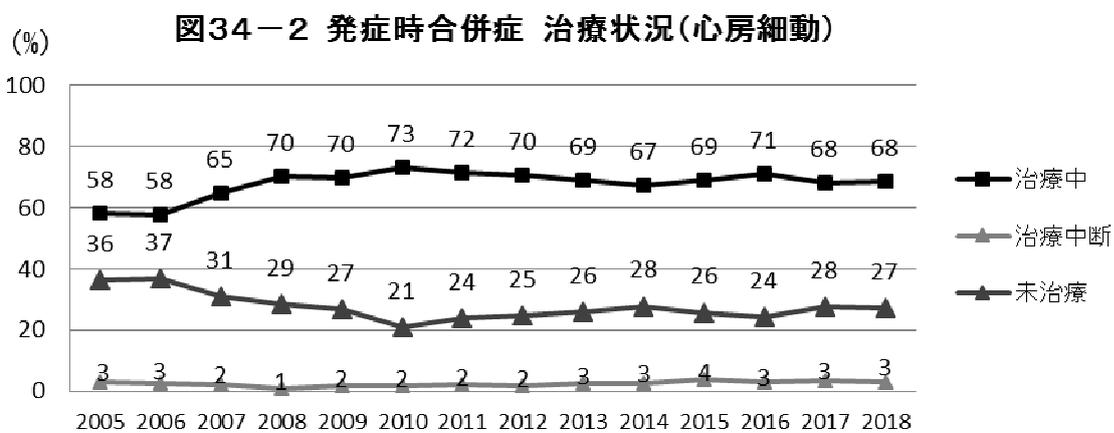
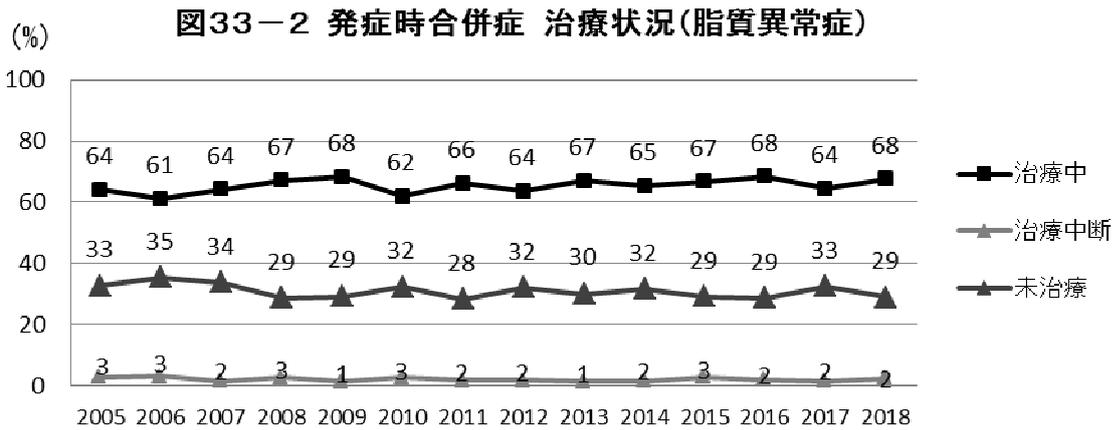




2) 発症時合併症の治療状況の経年変化

それぞれの合併症有りの登録者のうち、治療中、治療中断、未治療の割合の経年変化は、図 31-2、図 32-2、図 33-2、図 34-2、図 35-2 のとおりであった。





(※心筋梗塞は2015 から集計追加となった)

7 生活習慣等の状況

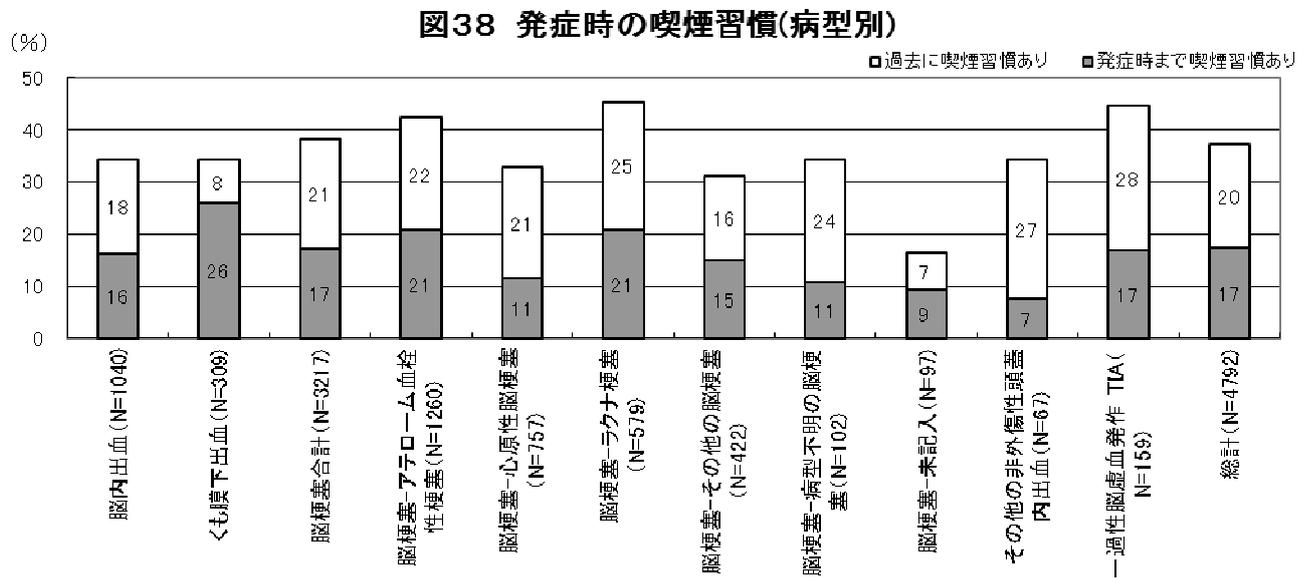
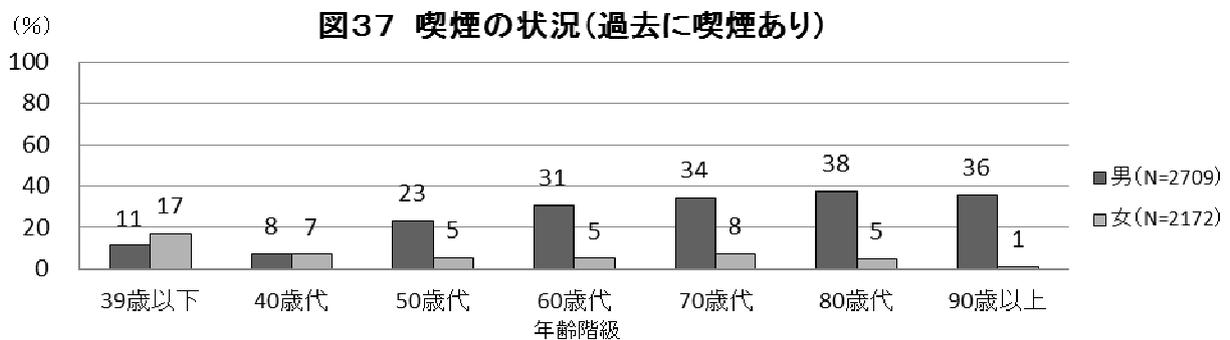
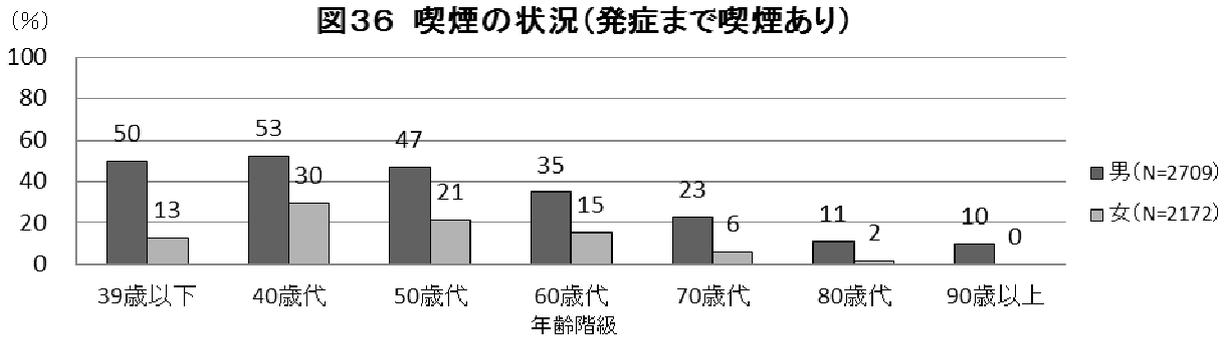
1) 喫煙習慣

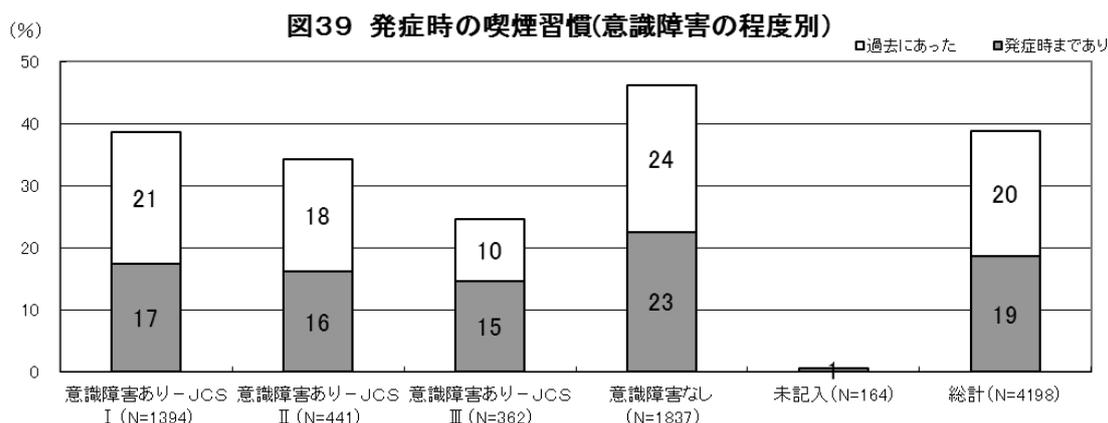
性別年齢階級別にみた発症時の喫煙習慣の状況は、発症時まで喫煙習慣ありが男で 26.3%、女で 6.4%、過去に喫煙ありが男で 31.7%、女で 5.2%であった (図 36・37)。

病型別にみた喫煙習慣の状況は、発症時まで喫煙習慣ありがくも膜下出血で 25.9%と最も多かった (図 38)。

急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別は、意識障害なしで発症時まで喫煙習慣ありが22.5%と多かった(図39)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計





2) 飲酒習慣

性別年齢階級別にみた発症時の飲酒習慣の状況は、毎日飲酒ありが男で32.1%、女で5.5%、機会飲酒ありは男で16.8%、女で8.6%であった(図40・41)。

病型別では毎日飲酒ありがその他の非外傷性頭蓋内出血で26.9%、脳内出血で21.5%と多かった(図42)。

急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別では、毎日飲酒ありが意識障害なしで25.4%と最も多かった(図43)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

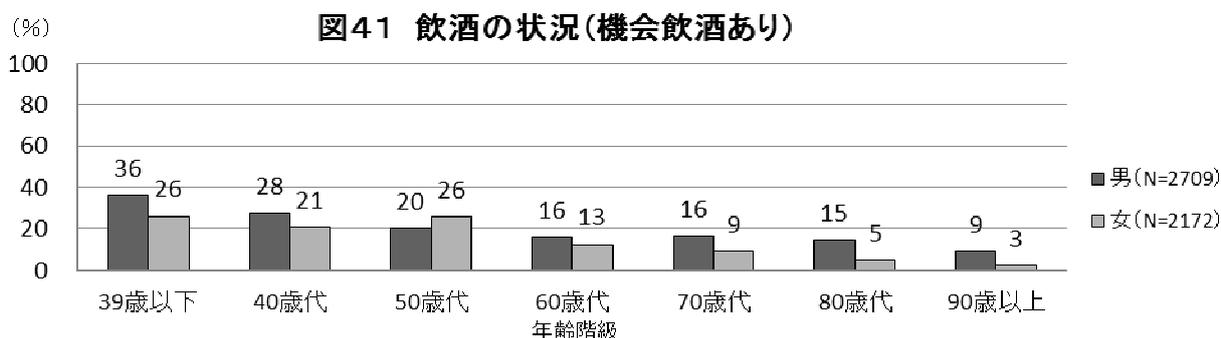
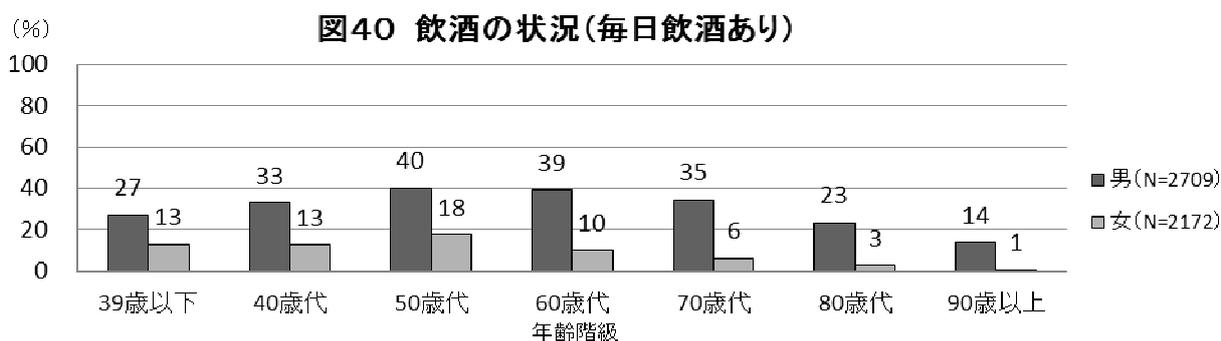


図42 発症時の飲酒習慣(病型別)

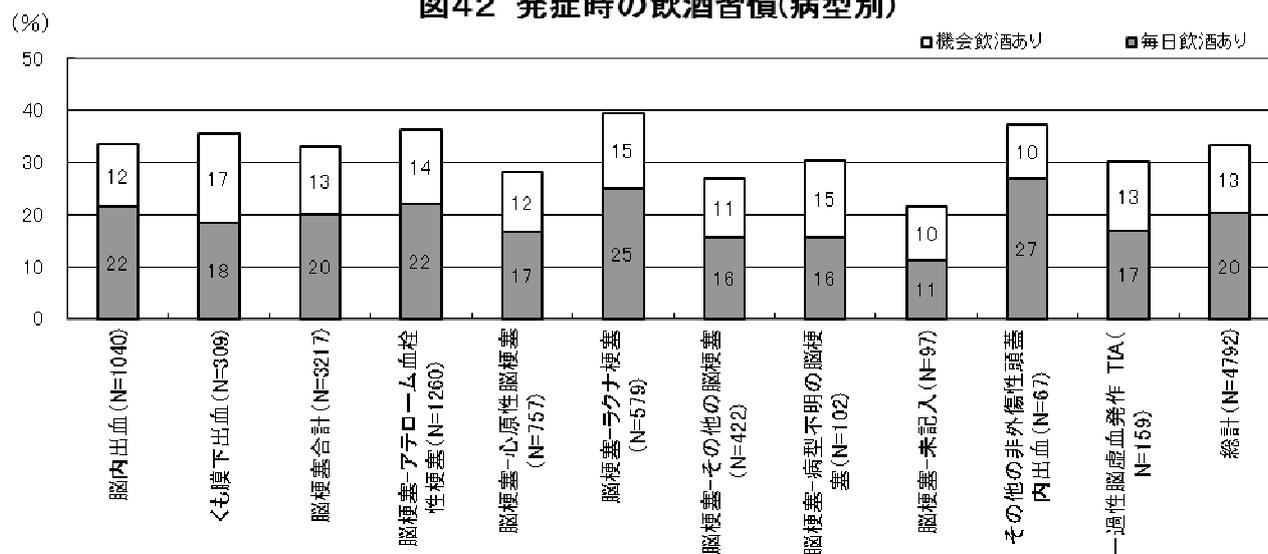
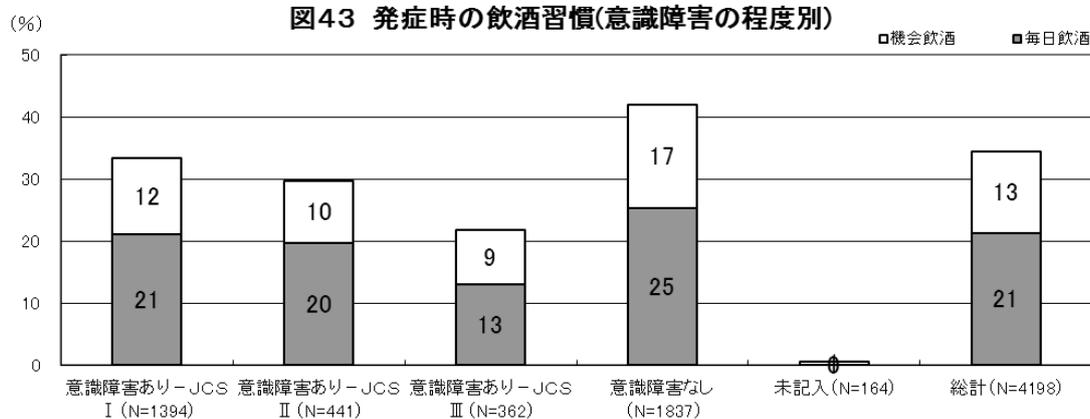


図43 発症時の飲酒習慣(意識障害の程度別)



3) 肥満

性別年齢階級別にみた肥満 (BMI 25.0 以上) の状況は、男で 22.4%、女で 18.8%であった (図 44)。

病型別にみた肥満の状況は、くも膜下出血で 24.9%とやや多かった (図 45)。急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別では、BMI 25.0 以上の割合は、意識障害なしが 27.7%と最も多かった (図 46)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図44 肥満 (BMI 25.0以上) の状況

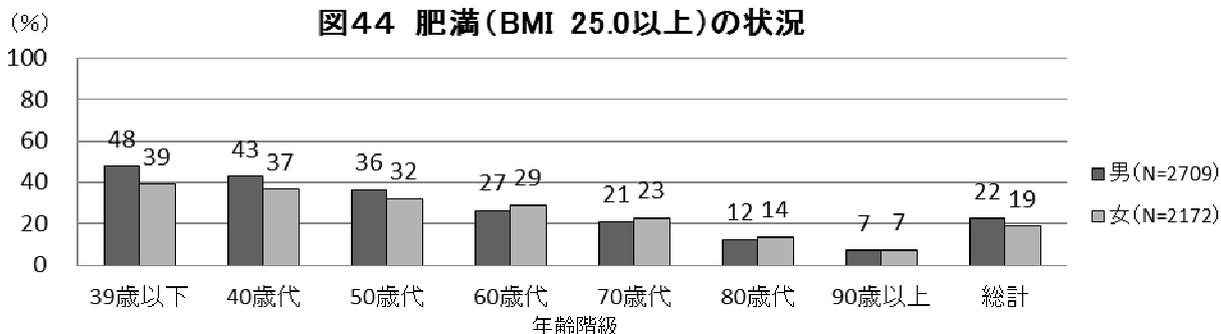


図45 肥満(BMI 25.0以上)の状況(病型別)

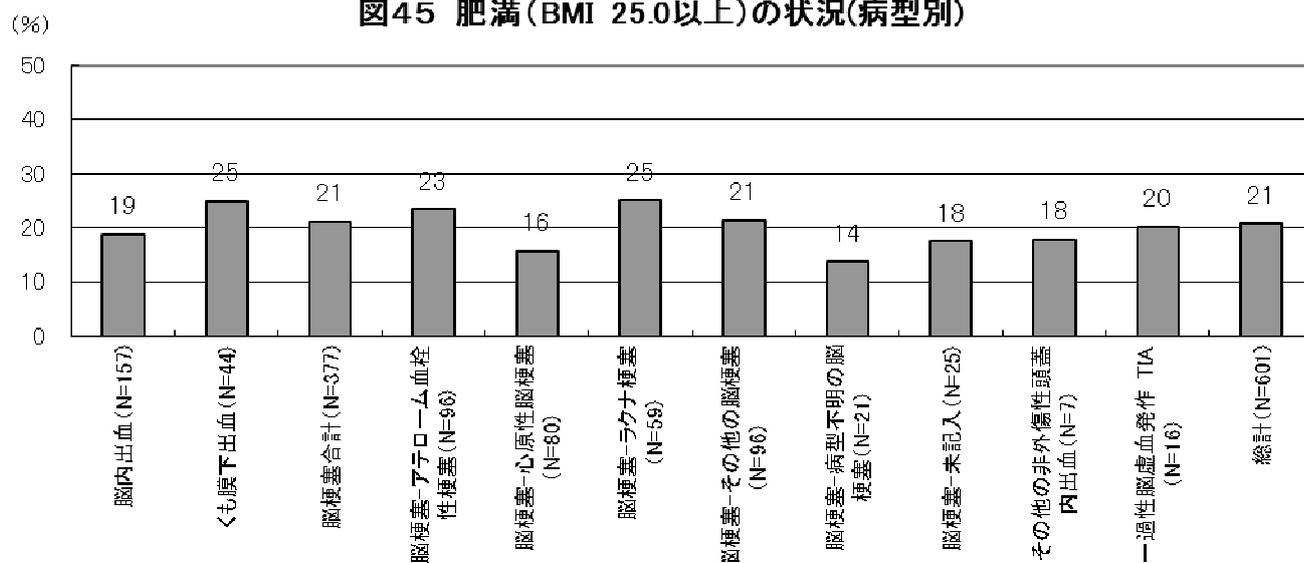
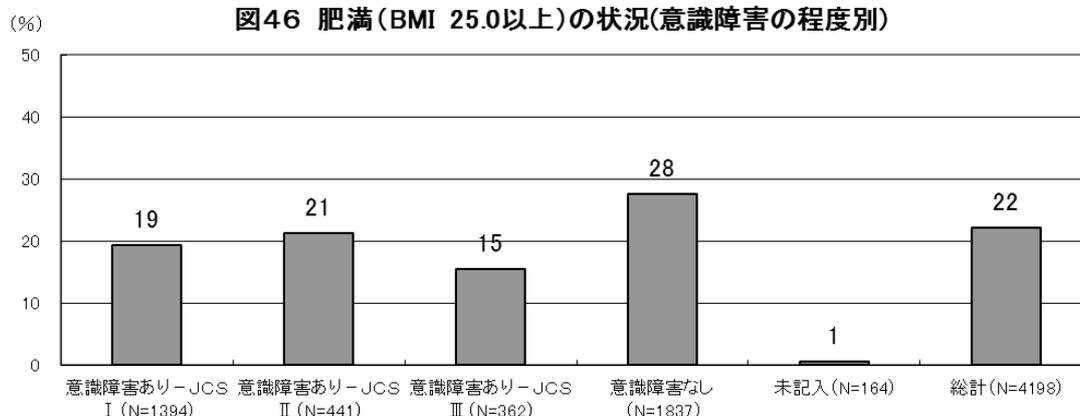


図46 肥満(BMI 25.0以上)の状況(意識障害の程度別)



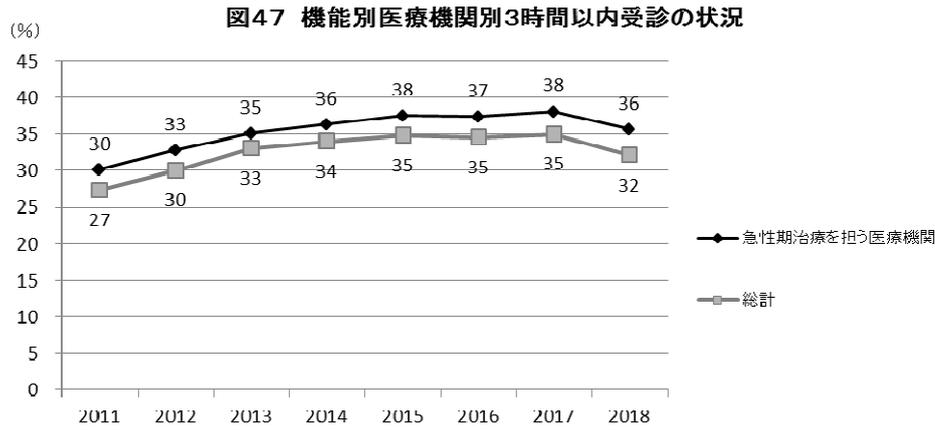
8 急性期治療を担う医療機関*における脳卒中啓発プロジェクトの状況

本県では、平成 24(2012)年より脳卒中啓発プロジェクト事業として積極的な脳卒中啓発活動を実施している。ここでは、平成 23(2011)年から平成 30(2018)年までのプロジェクト実施前後の状況について報告する。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

(1)機能別医療機関別 3 時間以内受診の状況

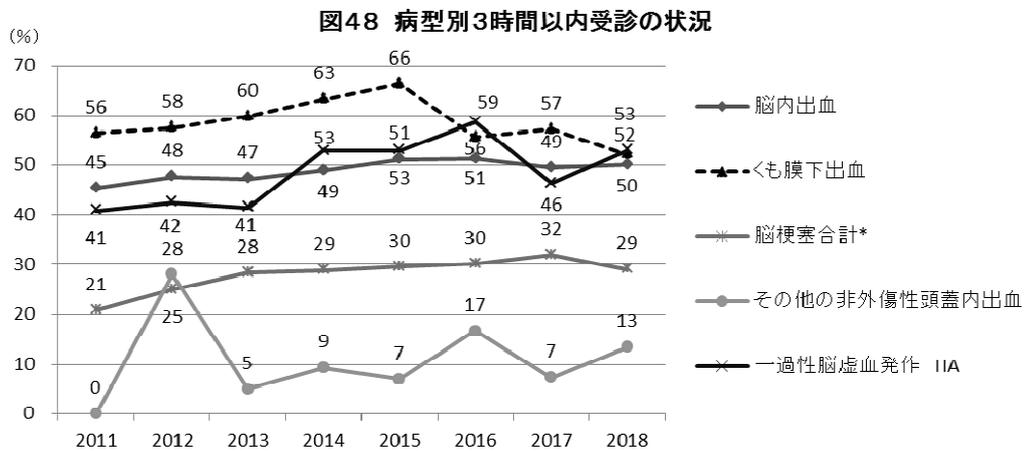
急性期治療を担う医療機関では、平成 30(2018)年は 35.7%であり、平成 23(2011)年と比較すると 5.6pt の増加がみられた。また、全医療機関では、平成 30(2018)年は 32.2%であり、平成 23(2011)年と比較すると 4.8pt の増加がみられた (図 47)。



(2)病型別 3 時間以内受診の状況

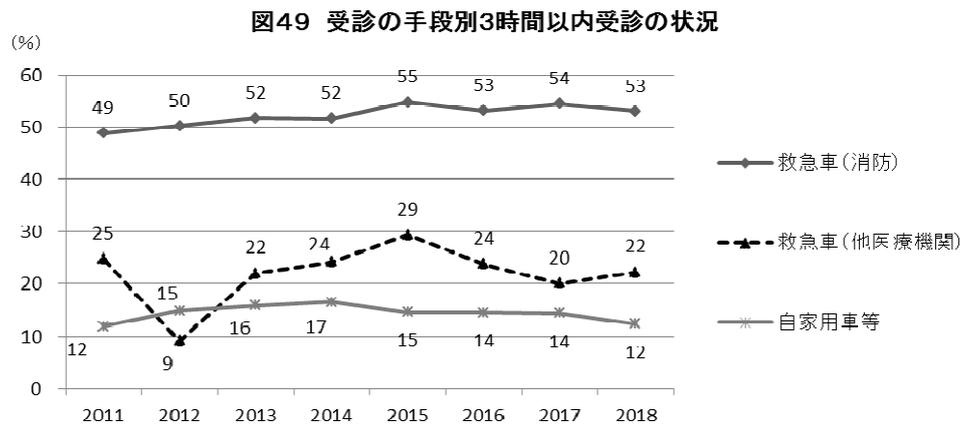
脳内出血では、平成 30(2018)年は 50.1%で、平成 23(2011)年と比較すると 4.8pt 増加した。脳梗塞合計では、平成 30(2018)年は 29.0%で、平成 23(2011)年と比較すると 8.2pt 増加した。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計



(3)受診の手段別 3 時間以内受診の状況

救急車（消防）が、平成 30(2018)年は 53.0%であり、平成 23(2011)年と比較すると 4.2pt 増加した。



<参考>発症月別診断病型別登録件数

ここでは脳卒中登録票（様式1号）に基づき情報提供された脳卒中患者情報のうち、平成30(2018)年1月1日から平成30(2018)年12月31日までに医療機関へ入院した4,718件について扱う。(令和元(2019)年8月受付分まで)

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図50-1 平成30(2018)年 発症月あたり診断病型別登録件数

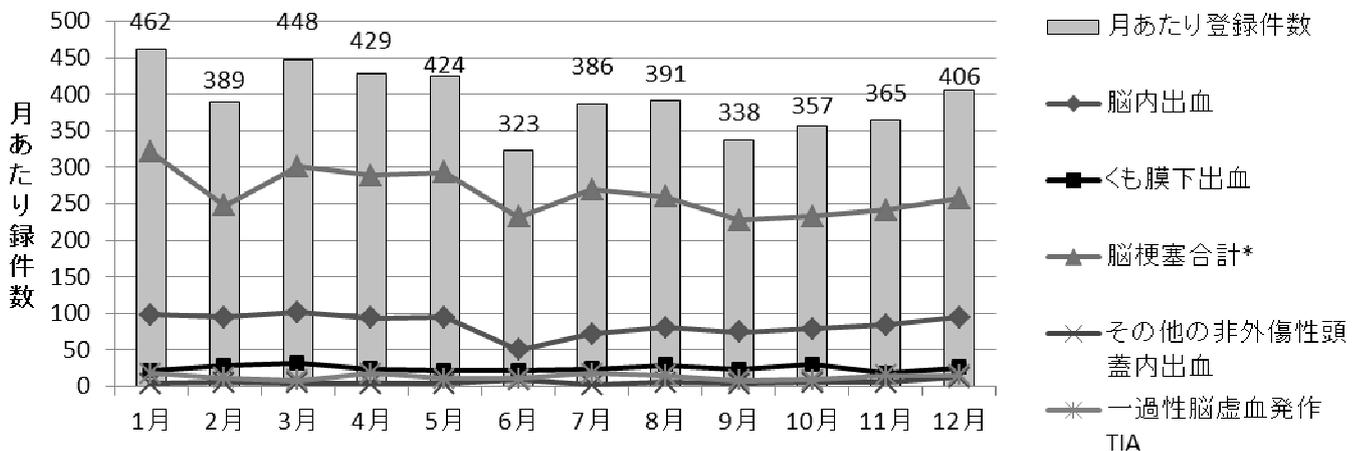


図50-2 平成30(2018)年 発症月別診断病型別1日あたり登録件数

